Collaboration Manager 管理ガイド

10*g* リリース 3（10.1.3.3.1）

部品番号 : B51304-01

2008 年 11 月

ORACLE®

Collaboration Manager 管理ガイド , 10*g* リリース 3（10.1.3.3.1）

部品番号 : B51304-01

原本名 : Collaboration Manager Administration Guide, 10*g* Release 3 (10.1.3.3.1)

原本協力者 : Bruce Silver

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987).Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 : はじめに

概要 1-1
このガイドについて 1-1
対象読者 1-1
表記規則 1-2
新機能 1-2

第 2 章 : Collaboration Manager の概要

概要 2-1
製品の概要 2-2
ソフトウェア要件 2-2
用語 2-3
管理者の職責 2-3
セキュリティ 2-4
ワークフロー・ウィザード 2-4
コラボレーション・プロジェクト管理 2-5
ユーザー情報フィールド 2-5
サブスクリプション 2-6
バッチ・ロード 2-6

第 3 章 : Collaboration Manager のセキュリティ設定

概要 3-1
セキュリティ上の問題の概要 3-2
管理者の職責 3-2
セキュリティ・レベル 3-3
権限 3-4
Projects セキュリティ・グループ 3-4

prj アカウント 3-4
グループ 3-5
グループの作成 3-5
アクセス権の決定 3-5
EnableForcedACLSecurity を使用したセキュリティの変更 3-7
Collaboration Manager ユーザーの設定 3-8
広範な権限（ベスト・プラクティス） 3-8
最低限の権限 3-9

第 4 章 : コラボレーション・ワークフローの使用方法

概要 4-1
コラボレーション・ワークフローの概要 4-2
コラボレーション・ワークフローについて 4-2
コラボレーション・ワークフローのサンプル 4-3
コラボレーション・ワークフローのヒント 4-3
ワークフロー・トークンの設定 4-4
ワークフロー・トークンの概要 4-5
ワークフロー・トークンの作成 4-5
ワークフロー情報フィールドの設定 4-6
ワークフロー情報フィールドの概要 4-6
ワークフロー情報フィールドの作成 4-7
構成ファイルへのトークンの追加 4-8
構成ファイルのエントリの概要 4-8
構成ファイルへのトークンの追加 4-8
コラボレーション・ワークフローの設定 4-9

第 5 章 : プロジェクト管理

概要 5-1
プロジェクト管理の概要 5-1
プロジェクトの管理 5-8
Collaboration Manager の設定の表示 5-8
プロジェクト・ルートの表示 5-8
プロジェクト・ルートの構成 5-9
Collaboration Manager のプロジェクト・リストの表示 5-10

付録 A: セキュリティの詳細

概要 A-1
最大権限の概要 A-2
最小権限の概要 A-2

機能別のセキュリティ A-3
プロジェクトのセキュリティ A-3
プロジェクト最小権限 A-3
プロジェクトのフォルダ・セキュリティ A-6
フォルダ最小権限 A-6
コンテンツ・アイテムのセキュリティ A-9
コンテンツ・アイテム最小権限 A-9
セキュリティの例 A-13
プロジェクト作成の例 A-14
プロジェクト機能の例 A-14
フォルダ作成の例 A-15
フォルダ機能の例 A-16
コンテンツ・チェックインの例 A-18
コンテンツ機能の例 A-19
ディスカッションの例 A-21
ワークフローの例 A-22

付録 B: サード・パーティ・ライセンス

概要 B-1
Apache Software License B-2
W3C® Software Notice and License B-2
Zlib License B-4
General BSD License B-5
General MIT License B-5
Unicode License B-6
その他の帰属 B-7

索引

1

はじめに

概要

この章の内容は、次のとおりです。

❖ このガイドについて（1-1 ページ）

❖ 新機能（1-2 ページ）

このガイドについて

このシステム管理ガイドでは、Oracle Collaboration Manager のすべての管理機能に関する概念、参照情報および作業手順について説明します。

❖ 対象読者（1-1 ページ）

❖ 表記規則（1-2 ページ）

対象読者

このガイドは、Oracle Collaboration Manager の管理者と、システム管理者からサブ管理者の権利を割り当てられた全ユーザーを対象としています。

表記規則

- *<install_dir>/* という表記は、Content Server がインストールされているシステム上の場所を参照するために使用されます。
- スラッシュ（/）は、パス名のディレクトリ・レベルの区切りとして使用されます。これは、Windows ファイル・システムまたは UNIX システム上でファイルを参照する場合に該当します。ディレクトリ名の末尾には常にスラッシュが付きます。
- 注意、技術ヒント、重要な通知および警告は、次の表記規則を使用します。

記号	説明
	注意：情報への特別な注意を喚起するときに使用されます。
	技術ヒント：タスクを容易にするために使用できる情報を示すときに使用されます。
	重要：必要な手順または情報を示すときに使用されます。
	警告：データの損失または重大なシステム障害の原因となる情報を示すときに使用されます。

新機能

`EnableForcedACLSecurity` 構成変数を使用すると、セキュリティ設定を向上できます。詳細は、3-7 ページの「EnableForcedACLSecurity を使用したセキュリティの変更」を参照してください。

2

COLLABORATION MANAGER の概要

概要

Collaboration Manager の管理機能の大半は、Content Server のテクノロジに基づいています。ただし、Collaboration Manager の一部の機能は、Content Server とは大きく異なるため、異なる管理が必要です。この章では、Content Server の管理機能とは異なる Collaboration Manager の管理機能の概要について説明します。

注意：このガイドの情報は、機能が Content Server の標準の機能と異なる場合にのみ、Content Server に付属の管理ガイドに記載されている情報より優先されます。大半の管理機能については、Content Server の管理ガイドを参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- 製品の概要（2-2 ページ）
- ソフトウェア要件（2-2 ページ）
- 用語（2-3 ページ）
- 管理者の職責（2-3 ページ）
- セキュリティ（2-4 ページ）
- ワークフロー・ウィザード（2-4 ページ）
- コラボレーション・プロジェクト管理（2-5 ページ）
- ユーザー情報フィールド（2-5 ページ）
- サブスクリプション（2-6 ページ）
- バッチ・ロード（2-6 ページ）

製品の概要

Collaboration Manager を使用すると、プロジェクト・グループでコンテンツ開発環境を作成できます。ユーザーは非定型のプロジェクト・チームを簡単に作成および削除でき、コンテンツをセキュアな方法で作成できます。

Collaboration Manager の機能の概要およびユーザー・インタフェースに関する情報は、『Collaboration Manager ユーザー・ガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

Collaboration Manager が動作できるオペレーティング・システムや互換性のあるサード・パーティのソフトウェア製品は Content Server 10*g*R3 と同じですが、次の例外があります。

- Collaboration Manager では、クラシック表示をサポートしていません。Content Server のクライアント・ユーザー・プロファイルでは、トレイ表示またはトップ・メニュー表示を使用する必要があります。
- Collaboration Manager 10*g*R3 には、現行バージョンの Folders コンポーネントが必要です。現行バージョンの Folders コンポーネントは、Content Server 10*g*R3 の追加コンポーネントとして提供されます。
- このバージョンの Collaboration Manager では、Records Manager または Governance, Risk, and Compliance Manager はサポートしていません。
- Folders コンポーネントおよび Threaded Discussions コンポーネントは、Collaboration Manager の前にインストールする必要があります。Collaboration Manager を最初にインストールすると、プロジェクト通知および「Active Workflows」ページが正しく機能しない場合があります。
- Collaboration Manager 10*g*R3 では、次のアドオン製品をサポートしています。
  - Inbound Refinery
  - PDF Converter
  - Dynamic Converter
  - Desktop Outlook Integration
  - Desktop WebDAV Client

  他のアドオン製品では、ユーザー・インタフェースをカスタマイズするために、コンサルティング・サービスが必要です。

用語

次の表に、Collaboration Manager および Content Server で使用される用語を示します。

Content Server	Collaboration Manager
エイリアス	グループ
権限	アクセス権または権限
ワークフロー	ルートまたはワークフロー
レビューア / コントリビュータ	エディタまたはコントリビュータ
コンシューマ	コンシューマ

管理者の職責

システム管理者は、Content Server の標準の管理タスクに加えて、コラボレーション・プロジェクト・リーダーとして指定されたユーザーと協力し、そのリーダーがコラボレーションの要素にセキュリティ権限を設定するのをサポートします。プロジェクト・リーダーは、コラボレーション・プロジェクトの日常のアクティビティに対して責任を負います。

システム管理者は、Collaboration Manager の次の機能の管理に責任を負います。

- **システムレベルのセキュリティ :** システム管理者は、ロールの作成、グループ（エイリアス）の作成、ユーザーへのロールおよびアカウントの割当てを実行します。この後、コントリビュータは権限をプロジェクト、フォルダおよびコンテンツに割り当てることができます。詳細は、第 3 章「Collaboration Manager のセキュリティ設定」を参照してください。
- **ワークフロー :** システム管理者は、コラボレーション・ワークフローおよびワークフロー・トークンを作成します。この後、コントリビュータは特定のコンテンツ・アイテムに対してユーザーをワークフローに割り当てます。詳細は、第 4 章「コラボレーション・ワークフローの使用方法」を参照してください。
- **Folders コンポーネント :** Collaboration Manager では、Content Server の Folders コンポーネントを使用して、コンテンツを階層構造で管理します。このコンポーネントの管理の詳細は、Folders/WebDAV コンポーネント・ガイドの Folders コンポーネントに関する項を参照してください。

- **「System Properties」の設定 :** Folders コンポーネントをインストールするときは、「Allow get copy for user with read privilege」の設定を有効にする必要があります。**この設定は無効にしないでください。**この設定を無効にすると、読取り権限のみを持つユーザーは、Collaboration Manager のフォルダ内のコンテンツ・アイテムを参照できなくなります。
- **ライブラリのWebサイト:** Collaboration Managerではコンテンツの作成およびコンテンツへのアクセスを階層構造から別の方法で実行できるため、ライブラリ用のページを作成する必要はありません。このため、Web Layout Editor は使用しません。

セキュリティ

Collaboration Manager では、特別なセキュリティ・モデルを使用することで、追加レベルのセキュリティを提供し、権限をプロジェクト、フォルダおよび個々のコンテンツ・アイテムに対して個別に指定できます。詳細は、第 3 章「Collaboration Manager のセキュリティ設定」を参照してください。

ワークフロー・ウィザード

Collaboration Manager では、コラボレーション・ワークフローを作成できます。このワークフローは、テンプレートに基づいており、ユーザーによって開始されます。詳細は、第 4 章「コラボレーション・ワークフローの使用方法」を参照してください。

注意 : Collaboration Manager には従来の基準ワークフローも設定できますが、Collaboration Manager は基本ワークフローをサポートしていません。基準ワークフローおよび基本ワークフローの詳細は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』を参照してください。

コラボレーション・プロジェクト管理

Collaboration Manager には、「Configuration」、「Project Roots」および「Project Listing」ページがあり、これらのページを使用して、コラボレーション・プロジェクトの設定、定義済のプロジェクト・ルートおよび現在のプロジェクトを確認します。これらのページには、「Administration」トレイの「Collaboration Projects」フォルダからアクセスします。

詳細は、第 4 章「コラボレーション・ワークフローの使用方法」を参照してください。

ユーザー情報フィールド

Collaboration Manager では、「User Type」フィールドのオプションが定義され（「User Admin」アプレットで定義）、他にも 2 つのユーザー情報フィールドがあります。

ユーザー情報フィールド	説明
User Type	このオプション・リストには次の 2 つのオプションがあります。 **Internal:** ユーザーは従業員または組織の一員です。 **External:** ユーザーは従業員または組織の一員ではありませんが、Collaboration Manager システムにアクセスできます。 **重要 :** いずれかのユーザー・タイプを指定しないと、プロジェクト、フォルダおよびコンテンツ・アイテムのメンバーを選択する際に使用するリストにユーザーが表示されません。 **注意 :** 内部および外部グループの作成の詳細は、3-5 ページの「グループ」を参照してください。
Company	ユーザーの会社または組織。
Phone	ユーザーの電話番号。

サブスクリプション

Collaboration Manager の基準サブスクリプションを使用すると、ユーザーはプロジェクトおよびフォルダにサブスクライブできます。また、Content Server と同じ手順を使用して、Collaboration Manager でカスタムの基準サブスクリプションを作成することもできます。詳細は、『リポジトリ・コンテンツの管理』ガイドを参照してください。

バッチ・ロード

Collaboration Manager へのコンテンツのバッチ・ロードは、Content Server へのコンテンツのバッチ・ロードと同様に実行できます。ただし、コンテンツが正しいプロジェクトおよびフォルダに配置されるように、次のメタデータを指定する必要があります。

メタデータ・フィールド	説明
dSecurityGroup	**Projects** セキュリティ・グループを指定する必要があります。
dDocAccount	コンテンツ・アイテムを配置するプロジェクトを指定します（prj/PRJ0000024 など）。 プロジェクト番号は、「Project Listing」ページ（5-7 ページ）の「Project ID」列で確認できます。「dDocAccount」の値は、このリストされた「Project ID」の値に接頭辞 prj/ を追加して導出されます。 プロジェクト番号は、Content Server データベースの「Collections」表の「dDocAccount」列でも確認できます。
xCollectionID	コンテンツ・アイテムを配置するフォルダのコレクション ID を指定します。コンテンツ・アイテムをプロジェクト・レベルに配置する場合、これはプロジェクトのコレクション ID になります。 コレクション ID は、「Project Listing」ページ（5-7 ページ）の「Folder ID」列で確認できます。「xCollectionID」の値は、このリストされた「Folder ID」の値と同じになります。 コレクション ID は、Content Server データベースの「Collections」表の「xCollectionID」列でも確認できます。

メタデータ・フィールド	説明
xClbraUserList	コンテンツ・アイテムに対するユーザーおよびユーザーの権限を指定します。 • 各ユーザー名の先頭にはアンパサンド（&）を付けます。 • 各ユーザー名の後にはユーザーの権限をカッコで挟んで指定します。 • ユーザー名はカンマで区切ります。 • 「dDocAuthor」フィールドで作成者として指定したユーザーには RWDA 権限が必要です（権限が RWDA 未満の作成者は、一部のコンテンツ・アイテム機能を実行できません）。 次はその例です。 `xClbraUserList=&sysadmin(RWDA),&user1(RW),&guest(R)`
xClbraAliasList	コンテンツ・アイテムに対するグループおよびグループの権限を指定します。 • 各グループ名の先頭には @ 記号を付けます。 • 各グループ名の後にはグループの権限をカッコで挟んで指定します。 • グループ名はカンマで区切ります。 次はその例です。 `xClbraAliasList=@Mktg(RWDA),@Mktg_ext(RW)`

次の例は、Collaboration Manager の一般的なバッチ・ロード・レコードを示しています。

```
Action=insert
dDocName= 32465_prj_schedule
dDocType=ADACCT
dDocTitle=Project Schedule for 32465 Project
dDocAuthor=sysadmin
dDocAccount=prj/PRJ24
dSecurityGroup=Projects
xCollectionID=11
xParentCollectionID=10
xClbraUserList=&sysadmin(RWDA),&rgarcia(RWDA),&pkelly(RW), &dmarkov(R)
xClbraAliasList=@Mktg(RWDA),@Mktg_ext(RW)
primaryFile=C:¥batchtestlisa2.txt
dInDate=8/03/02
<<EOD>>
```

バッチ・ロードの詳細は、『システム設定およびプロセスの管理』ガイドを参照してください。

3

COLLABORATION MANAGER のセキュリティ設定

概要

Collaboration Manager では、複数のセキュリティ方法を組み合せてプロジェクト・コンテンツへのアクセスを制御します。これらの方法としては、特定のコンテンツ・アイテムおよびフォルダへのアクセス権を変更できるアクセス・リストや、Content Server の標準のセキュリティ・グループおよびアカウントなどがあります。この章では、Collaboration Manager のセキュリティ・モデルについて説明します。この章の内容は、次のとおりです。

- セキュリティ上の問題の概要（3-2 ページ）
- EnableForcedACLSecurity を使用したセキュリティの変更（3-7 ページ）
- Collaboration Manager ユーザーの設定（3-8 ページ）

注意：この章の内容は、Collaboration Manager のセキュリティが Content Server の標準のセキュリティと異なる場合にのみ、『セキュリティおよびユーザー・アクセスの管理』に記載の情報より優先されます。

セキュリティ上の問題の概要

この項の内容は、次のとおりです。

- 管理者の職責（3-2 ページ）
- セキュリティ・レベル（3-3 ページ）
- 権限（3-4 ページ）
- Projects セキュリティ・グループ（3-4 ページ）
- prj アカウント（3-4 ページ）
- グループ（3-5 ページ）
- アクセス権の決定（3-5 ページ）

管理者の職責

Collaboration Manager のセキュリティ・モデルを使用すると、システム管理者がユーザー権限とセキュリティ構造の管理に要する時間と労力を削減できます。

一般には、管理者がユーザーのログインおよびエイリアス（Collaboration Manager では「グループ」と呼ばれる）を作成し、システムレベルの権限を割り当てた後で、ワークグループ・メンバーおよびコラボレーション・プロジェクト・リーダーがプロジェクトを作成し、すべての追加的な権限の割当てまたは再割当てを実行します。

重要 : Content Server に事前定義されている admin ロールまたは sysadmin ユーザーのデフォルトの権限は変更しないでください。デフォルトの権限により、管理者はすべてのプロジェクト、フォルダおよびコンテンツ・アイテムにアクセスできます。このアクセス権は、管理者がセキュリティ上の問題のトラブルシューティングを行う必要がある場合に役立ちます。特定のユーザーに一部の管理権限が必要な場合は、適切なサブ管理者の権限を持つ新しいロールを作成してください。詳細は、『セキュリティおよびユーザー・アクセスの管理』を参照してください。

セキュリティ・レベル

Collaboration Manager では、次の 4 つのレベルのセキュリティが適用されます。

- **システム :** システム管理者は、Projects セキュリティ・グループ（3-4 ページ）および prj アカウント（3-4 ページ）を使用して、システムレベルの権限および権利を各ユーザーに割り当てます。このセキュリティ・レベルのユーザーの権限により、プロジェクトの作成、コンテンツへのメンバー・アクセスの変更および管理作業の実行（新規ユーザーの追加やワークフロー・テンプレートの作成など）をユーザーが行えるかどうかが決まります。
- **プロジェクト :** 各プロジェクトには、そのプロジェクトに対して特定の権限を持つユーザーおよびグループ（Content Server のエイリアスに類似）のリストがあります。各プロジェクトにはプロジェクト・リードがいて、そのプロジェクトのすべての管理権限を持っています。
- **フォルダ :** 各フォルダには、そのフォルダに対して特定の権限を持つユーザーおよびグループのリストがあります。親プロジェクトにアクセスできるメンバーに対してフォルダへのアクセスを制限したり、親プロジェクトにアクセスできないメンバーに対して個々のフォルダへの権限を付与したりできます。各フォルダにはフォルダ所有者がいて、そのフォルダのすべての管理権限を持っています。
- **コンテンツ・アイテム :** 各コンテンツ・アイテムおよびディスカッションには、そのアイテムに対して特定の権限を持つユーザーおよびグループのリストがあります。親プロジェクトおよびフォルダにアクセスできるメンバーに対してコンテンツ・アイテムまたはディスカッションへのアクセスを制限したり、親プロジェクトまたはフォルダにアクセスできないメンバーに対して個々のコンテンツ・アイテムまたはディスカッションへの権限を付与したりできます。各コンテンツ・アイテムおよびディスカッションには作成者がいて、そのコンテンツ・アイテムまたはディスカッションのすべての管理権限を持っています。

注意 : デフォルトの admin ロールを持つユーザーには、プロジェクト、フォルダおよびコンテンツのレベルでの追加権限があります。詳細は、A-3 ページの「機能別のセキュリティ」を参照してください。

関連項目

- 権限（3-4 ページ）
- アクセス権の決定（3-5 ページ）
- 機能別のセキュリティ（A-3 ページ）
- Collaboration Manager ユーザーの設定（3-8 ページ）

権限

権限により、ユーザーがプロジェクト、フォルダおよびコンテンツ・アイテムの操作に関して持つアクセス権が決まります。ユーザーには、4 つの全セキュリティ・レベルで次の権限を割り当てることができます。

- 読取り（R）
- 書込み（W）
- 削除（D）
- 管理（A）

詳細は、A-3 ページの「機能別のセキュリティ」を参照してください。

Projects セキュリティ・グループ

Content Server に事前定義されている Public セキュリティ・グループおよび Secure セキュリティ・グループに加えて、Collaboration Manager では Projects セキュリティ・グループが作成されます。ユーザーは、いずれかの Collaboration Manager コンテンツにアクセスする、またはいずれかの Collaboration Manager 機能を実行するには、Projects セキュリティ・グループに対する権限が必要です。

prj アカウント

Collaboration Manager では、アカウントが有効であり、prj というアカウントが最上位のプロジェクト・アカウントとして作成されます。これは、大規模な文書管理サイト内のアカウントに類似しています（たとえば、内部、外部採用、ポリシーなどのサブグループがある人事アカウントなど）。必要に応じて、別のアカウントを最上位のアカウントとして使用できます。

- Collaboration Manager で作成される各プロジェクトは、prj アカウントのサブアカウントになります。
- プロジェクト・アカウントには、作成順に番号が付けられます。たとえば、Collaboration Manager の新規インスタンスで作成される最初のプロジェクトは prj/PRJ0000001 になります。
- ユーザーにプロジェクト以外のアカウントを作成することも可能ですが、そのようなアカウントは Collaboration Manager では認識されません。
- prj アカウントに対する権限を付与されたユーザーは、権限が付与されたプロジェクトに対してその権限を持ちます。

グループ

Collaboration Manager のグループ機能は、Content Server のエイリアス機能と同じです。User Admin ツールでエイリアスを定義すると、そのエイリアスは Collaboration Manager のユーザー・インタフェースでグループとして表示されます。

技術ヒント : グループをできるかぎり使用して、ユーザーの作業効率を高め、Collaboration Manager のパフォーマンスを向上することをお薦めします。

グループの作成

Collaboration Manager では、内部ユーザーと外部ユーザーを区別するのと類似した方法で、内部グループと外部グループを区別します。ただし、ユーザー・タイプ（「Internal」または「External」）は User Admin ツールで定義しますが、グループ・タイプはグループ名の設定方法に基づいて定義されます。

- **外部グループ**には、エイリアス名に **_ext** 接尾辞が付きます（Mktg_ext など）。
- **内部グループ**は、末尾に **_ext** がない別のエイリアス名で定義されます（Mktg など）。

アクセス権の決定

警告 : 外部ユーザーを内部グループに含めたり、内部ユーザーを外部グループに含めたりしないよう注意してください。含めた場合、意図したより多い、または少ない権限がユーザーに付与されることがあります。

ユーザーが特定のプロジェクト、フォルダまたはコンテンツ・アイテムに対して持つ権限は、ユーザーのシステムレベルの権限と、その特定のアイテムに対して持つ権限を組み合せたものになります。次の図は、セキュリティ・グループ、アカウントおよびアイテムの権限がどのように重なるかを示す例です。

図 3-1　　アイテムの権限

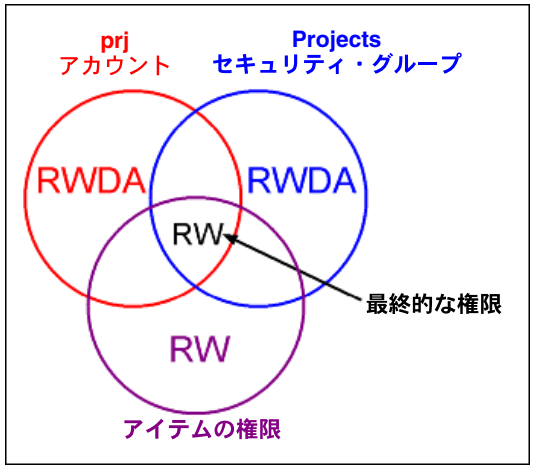
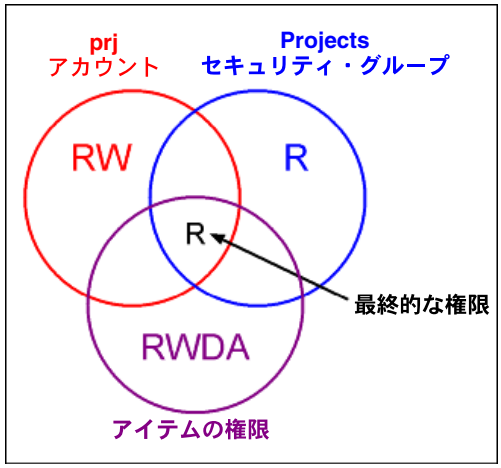


図 3-2　　アイテムの権限（より限定的）



複数の権限が重なる場合、最終的な権限は、共通する最小の権限になります（つまり、アクセス権が最も限定的な権限になります)。

ENABLEFORCEDACLSECURITY を使用したセキュリティの変更

EnableForcedACLSecurity 構成変数を使用すると、コラボレーション・プロジェクトのセキュリティの動作を変更できます。管理者は、この変数を使用して、ユーザーがアクセスできる情報をさらに細かく指定できます。これを指定しないと、Content Server の標準の管理権限 / 権利を持つユーザーが、プロジェクト権限を持っていないプロジェクトの一部にもアクセスできます。たとえば、Projects セキュリティ・グループに対する Content Server の標準の管理権限を持つユーザーは、プロジェクトで設定されたフォルダに対する権限を持っていなくても、そのフォルダを表示できます。
EnableForcedACLSecurity 構成変数を使用すると、管理者は、特定のコンテンツ・アイテムおよびフォルダに対してアクセス・リストを常に評価するようセキュリティを設定できます。次はその例です。

❖ EnableForcedACLSecurity=TRUE の場合（デフォルト）

- 各コンテンツ・アイテムまたはフォルダのアクセス・リストにより、Content Server の admin ロールを付与されていない各ユーザーに対して、Content Server の標準のセキュリティ・モデルが補強されます。つまり、ユーザーに Content Server の admin ロールが付与されていない場合、プロジェクト・コンテンツへのアクセス権は、そのコンテンツに設定された R、W、D または A 権限と、Content Server の標準のセキュリティ・グループおよびアカウント権限の組合せによって決まります。3-5 ページの「アクセス権の決定」を参照してください。
- EnableForcedACLSecurity=TRUE の場合、ユーザーに Content Server の admin ロールが付与されていると、エンティティのアクセス・リストは無視され、Content Server の標準のセキュリティ・モデルによってコンテンツへのアクセス権が決まります。

❖ EnableForcedACLSecurity=FALSE の場合

- エンティティのアクセス・リストは無視され、Content Server の標準のセキュリティ・モデルによってコンテンツへのアクセス権が決まります。

EnableForcedACLSecurity 構成変数の効果の詳細は、付録 A「セキュリティの詳細」を参照してください。

COLLABORATION MANAGER ユーザーの設定

Collaboration Manager ユーザーを設定する前に、サイトで内部データへのアクセスをどのように許可するかを決定します。次の 2 タイプのアクセス・モデルがあります（各モデルに複数のサブモデルがあります）。

- 保守的なモデル : ほとんどのユーザーに最低限の権限を付与し、コラボレーション・プロジェクト管理者が個々のコンテンツ、フォルダまたはプロジェクトに応じて権限を拡張します。
- 自由なモデル : ユーザーに広範な権限を付与し、プロジェクト管理者がプロジェクトの個々の部分に対して権限を制限します。

使用するモデルのタイプにかかわらず、次の 2 つの手順で Collaboration Manager のセキュリティ・モデルを設定します。

1. Projects セキュリティ・グループに対する特定の権限を持つユーザー・ロールを作成します。
2. ロールおよび prj アカウントに対する特定の権限を各ユーザーに割り当てます。

広範な権限（ベスト・プラクティス）

柔軟性を最大限にし、システム管理者の関与を最小限にするには、ユーザーに Collaboration Manager への広範なシステムレベルのアクセス権を付与し、その後、ワークグループ・メンバーがプロジェクト、フォルダおよびドキュメントのレベルで権限の割当てまたは再割当てを実行できるようにします。この点に留意すると、大半のユーザーには次のシステムレベルの権限を設定できます。

ユーザー	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントに対する権限
プロジェクトを作成できるサブ管理者	RWDA	RWDA
プロジェクトを作成できるコントリビュータ	RWD	RWDA
プロジェクトを作成できないコントリビュータ	RWD	RWD

このセキュリティ・モデルは、subadmin、project_creator、contributor などの 3 つの新規ロールを作成し、適切な Projects セキュリティ・グループの権限を各ロールに割り当てることで実現できます。その後、各ユーザーに適切なロールを割り当て、適切な権限を持つ prj アカウントを割り当てます。

最低限の権限

一部のユーザーの権限を「広範な権限」のセキュリティ・モデルよりも少ない権限に制限する必要がある場合は、任意の権限を組み合せて設定できます。様々な Collaboration Manager 機能の実行に必要な**最低限**の権限の説明は、付録 A「セキュリティの詳細」を参照してください。

4

コラボレーション・ワークフローの使用方法

概要

この章では、コラボレーション・ワークフローの次の概念および管理タスクについて説明します。

- コラボレーション・ワークフローの概要（4-2 ページ）
- ワークフロー・トークンの設定（4-4 ページ）
- コラボレーション・ワークフローの設定（4-9 ページ）

注意：この章の情報は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』に記載のコラボレーション・ワークフローに関する情報より優先されます。ワークフローの概要、基準ワークフローに関する情報、移動およびテンプレートの詳細は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』を参照してください。

コラボレーション・ワークフローの概要

この項の内容は、次のとおりです。

- コラボレーション・ワークフローについて（4-2 ページ）
- コラボレーション・ワークフローのサンプル（4-3 ページ）
- コラボレーション・ワークフローのヒント（4-3 ページ）

コラボレーション・ワークフローについて

コラボレーション・ワークフローは、基準ワークフローに類似していますが、ワークフロー・テンプレートおよびレビューアが Workflow Admin ツールで管理者によって定義されるのではなく、ファイル・チェックイン中に Collaboration Manager ユーザーによって指定される点が異なります。

- コラボレーション・ワークフローは、Workflow ウィザードの最初のページに表示され、ユーザーはこのウィザードでワークフロー・テンプレートを選択し、特定のコンテンツ・アイテムにルーティングします。使用可能なワークフローのリストを表示するには、「Configure」ボタンをクリックして Workflow ウィザードを起動します（このボタンは、Collaboration Manager のチェックイン・ウィンドウの「Selected Workflow」メタデータ・フィールドに関連付けられています）。『Collaboration Manager ユーザー・ガイド』の「プロジェクト・リンクでの作業」を参照してください。

  ワークフロー・ウィザードの残りのページは、トークンを含むステップの数に基づきます。選択するワークフローにかかわらず、このウィザードにはサマリー・ページがあります。詳細は、『Collaboration Manager ユーザー・ガイド』の「ワークフロー・ウィザードの使用」を参照してください。

  ユーザーが自分のコラボレーション・ワークフローを管理できるようにするには、システム管理者はまずワークフロー・トークンを作成し、そのトークンに対応するワークフロー情報フィールドを作成し、次にそのトークンの名前を構成ファイルに追加する必要があります。

- ❖ トークンの設定後、プロジェクト管理者はコラボレーション・ワークフローを作成できます。コラボレーション・ワークフローは、単なる基準ワークフローに次の特定の設定を追加したものです。
  - **Security Group:** プロジェクト
  - **Criteria:** 「Selected Workflow」はワークフロー名に一致
  - **「Is Collaboration Project」チェック・ボックス :** 選択
  - 最初のステップ用のカスタム・エントリ・スクリプト

関連項目

– コラボレーション・ワークフローの設定（4-9 ページ）

コラボレーション・ワークフローのサンプル

サンプルのワークフロー・トークンおよびコラボレーション・ワークフロー・テンプレートは、Workflow Admin ツールに事前定義されています。

- ❖ これらのテンプレートは、独自のコラボレーション・ワークフローを作成する開始点として使用し、元のテンプレートはそのまま残しておくことをお薦めします。
- ❖ コラボレーション・ワークフロー内のサンプルのトークンをそのまま使用したり、必要に応じて変更すること、あるいは独自のトークンを作成したりできます。

コラボレーション・ワークフローのヒント

- ❖ コラボレーション・ワークフローに割り当てた全ユーザーには、コンテンツ・アイテムに対する読取り権限が必要です。エディタ（コントリビュータ）がリビジョンをチェックインおよびチェックアウトするには、コンテンツ・アイテムに対する書込み権限が必要です。
- ❖ コラボレーション・ワークフローが有効な間は、ステップの追加または削除はできません。
- ❖ コラボレーション・ワークフローを無効にすると、ワークフロー・プロセス内に残っているすべてのリビジョンがシステムにリリースされます。
- ❖ コラボレーション・ワークフローでは、サブワークフローおよび Projects セキュリティ・グループ内の他の基準ワークフローに移動したり、同じワークフロー内の他のステップに移動したりできます。
- ❖ 管理者がワークフロー・ステップに対して 1 つのワークフロー・トークンのみを定義していても、ユーザーは各ワークフロー・ステップのレビューアとして複数のユーザーおよびグループを選択できます。

- 特定のワークフロー・ステップに必要な承認と同じ数のワークフロー・トークンを割り当てると便利な場合があります。各トークンは、チェックイン・ウィンドウの「Choose Workflow」ページに個別のユーザー・フィールドとして表示されます。たとえば、あるステップで 2 つの承認が必要な場合、2 つのワークフロー・トークンを割り当てると、ユーザーは少なくとも 2 人のレビューアをワークフローに割り当てることを認識できます。
- **ワークフロー、ステップおよびトークンの詳細な説明を入力します。**
  - ワークフローの説明は、Workflow ウィザードの「Choose Workflow」ページに表示されます。コントリビュータはこれを使用してワークフローを選択します。たとえば、「編集とレビュー」よりも、「編集ステップ 2 つ、レビュー・ステップ 1 つ」のほうが、わかりやすい説明になります。
  - ワークフロー・ステップの説明は、Workflow ウィザードの「Add Reviewers」ページに表示されます。コントリビュータはこれを使用してレビューアを選択します。たとえば、「編集」よりも、「最初の編集サイクル、2 つの承認が必要」のほうが、わかりやすい説明になります。
  - トークンの説明は、Workflow ウィザードの「Add Reviewers」ページに表示されます。コントリビュータはこれを使用してレビューアを選択します。たとえば、「エディタ」よりも、「コピーを編集するユーザーを割り当てる」のほうが、わかりやすい説明になります。

ワークフロー・トークンの設定

この項の内容は、次のとおりです。

- ワークフロー・トークンの概要（4-5 ページ）
- ワークフロー・トークンの作成（4-5 ページ）
- ワークフロー情報フィールドの設定（4-6 ページ）
- 構成ファイルへのトークンの追加（4-8 ページ）

ワークフロー・トークンの概要

ワークフロー・トークンは、ワークフロー内の可変ユーザーを定義する Idoc スクリプトです。

- コラボレーション・ワークフローでは、トークンはレビューアのプレースホルダとして機能します（レビューアは、コントリビュータがコンテンツ・アイテムをチェックインするまで定義されません）。
- トークンは、複数のワークフローで使用できます。
- ワークフロー・トークンを設定するには、次の手順を実行する必要があります。
  1. トークンを作成します。4-5 ページの「ワークフロー・トークンの作成」を参照してください。
  2. トークンと同じ名前のメタデータ・フィールドを作成します。4-6 ページの「ワークフロー情報フィールドの設定」を参照してください。
  3. トークンを構成ファイルに追加します。4-8 ページの「構成ファイルへのトークンの追加」を参照してください。

注意：ワークフロー・トークンの詳細は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』を参照してください。

ワークフロー・トークンの作成

ワークフロー・トークンを作成するには、次のタスクを実行します。

1. 「Workflow Admin」アプレットを起動します。
2. **「Options」**→**「Tokens」**を選択します。

   「Workflow Tokens」画面が表示されます。
3. **「Add」**をクリックします。

   「Add Tokens」画面が表示されます。
4. トークン名を**「Token Name」**フィールドに入力します。

重要：「Token Name」は、対応するワークフロー情報フィールドの名前と一致する必要があります。4-6 ページの「ワークフロー情報フィールドの設定」を参照してください。

5. 詳細な説明を**「Description」**フィールドに入力します。この説明は、チェックイン・ウィンドウの「Choose Workflow」ページの「Users」フィールドの下に表示されます。

6. 「Users」フィールドに、次のテキストを入力します。
   `<$wfAddUser(wfGet("token_name"), "user")$>`
   token_name は、「Token Name」フィールドに入力したものと同じ名前です。
7. **「OK」**をクリックします。
8. **「Close」**をクリックします。

関連項目

– ワークフロー・トークンの概要（4-5 ページ）
– ワークフロー情報フィールドの設定（4-6 ページ）
– 構成ファイルへのトークンの追加（4-8 ページ）

ワークフロー情報フィールドの設定

この項の内容は、次のとおりです。

❖ ワークフロー情報フィールドの概要（4-6 ページ）
❖ ワークフロー情報フィールドの作成（4-7 ページ）

ワークフロー情報フィールドの概要

カスタム・メタデータ・フィールドは、コラボレーション・ワークフローのルーティング情報の保持に必要です。各情報フィールドは、ワークフロー・トークンに対応します。ワークフロー情報フィールドは、Configuration Manager ツールで他のカスタム・メタデータ・フィールドと同様に作成します。

関連項目

– ワークフロー情報フィールドの作成（4-7 ページ）
– ワークフロー・トークンの概要（4-5 ページ）

ワークフロー情報フィールドの作成

新しいワークフロー・トークンに対応するワークフロー情報フィールドを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Configuration Manager」アプレットを起動します。
2. **「Information Fields」**タブをクリックします。
3. **「Add」**をクリックします。

   「Add Custom Info」画面が表示されます。
4. 作成したトークンの名前を入力します。

重要：「Field Name」は、対応するワークフロー・トークンの名前と一致する必要があります。4-5 ページの「ワークフロー・トークンの作成」を参照してください。

5. **「OK」**をクリックします。

   「Add Custom Info Field」画面が表示されます。
6. フィールドのプロパティを次のとおり設定します。

フィールド	値
Field Caption	field_name
Field Type	メモ
「Require Value」チェック・ボックス	選択を解除
「Enable on User Interface」チェック・ボックス	選択
「Enable for Search Index」チェック・ボックス	選択
「Enable Option List」チェック・ボックス	選択を解除

7. **「OK」**をクリックします。
8. **「Update Database Design」**をクリックします。（索引の再構築は不要です。）

詳細は、『リポジトリ・コンテンツの管理』ガイドを参照してください。

関連項目

– ワークフロー情報フィールドの概要（4-6 ページ）
– ワークフロー・トークンの概要（4-5 ページ）

構成ファイルへのトークンの追加

この項の内容は、次のとおりです。

❖ 構成ファイルのエントリの概要（4-8 ページ）

❖ 構成ファイルへのトークンの追加（4-8 ページ）

構成ファイルのエントリの概要

新しいワークフロー・トークンを作成するときは、次のファイルの prjWizardTokens エントリにトークン名を追加する必要があります。

<install_dir>/*<instance>*/data/components/CollaborationManager/config.cfg

構成ファイルへのトークンの追加

ワークフロー・トークンを構成ファイルに追加するには、次の手順を実行します。

1. テキスト・エディタで、次のファイルを開きます。

   <install_dir>/*<instance>*/data/components/CollaborationManager/config.cfg

2. 新しいトークンの名前を prjWizardTokens エントリの末尾に追加します。たとえば、新しいトークンの名前が ReviewStep3 の場合は、次のようになります。

   `prjWizardTokens=ReviewStep1,ReviewStep2,`**`ReviewStep3`**

3. ファイルを保存して閉じます。
4. Content Server を再起動します。

関連項目

– ワークフロー・トークンの概要（4-5 ページ）

コラボレーション・ワークフローの設定

コラボレーション・ワークフローを作成するには、Workflow Admin ツールで基準ワークフローを次のように作成します。

注意 : 基準ワークフローの詳細は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』を参照してください。

1. 「Workflow Admin」アプレットを起動します。
2. **「Criteria」**タブをクリックします。
3. **「Add」**をクリックします。

   「New Criteria Workflow」画面が表示されます。
4. 名前を**「Workflow Name」**フィールドに入力します。
5. 詳細な説明を**「Description」**フィールドに入力します。この説明は、Configure Workflow ウィザードで、「Content Checkin」ページの「Choose Workflow」リストに表示されます。
6. **「Projects」**セキュリティ・グループを選択します。
7. テンプレートがある場合、**「Use Template」**チェック・ボックスが表示されます。チェック・ボックスを選択し、使用するテンプレートの名前を選択します。
8. **「Has Criteria Definition」**チェック・ボックスを選択します。
9. **「Field」**リストから**「Selected Workflow」**を選択します。
10. ワークフロー名を**「Value」**フィールドに入力します。

重要 : **「Value」**フィールドに入力するテキストは、**「Workflow Name」**フィールドと一致する必要があります。

11. **「Is Collaboration Project」**チェック・ボックスを選択します（**「Enable」**をクリックします）。
12. **「OK」**をクリックします。
13. テンプレートを使用せずにステップを作成した場合、または他のステップを追加する場合は、右ペインにある**「Add」**をクリックします。

    「Add New Step」画面が表示されます。
14. ステップに適した**名前**および**説明**を入力します。ステップの説明は、Configure Workflow ウィザードの「Step」ページに表示されます。

15. レビュー・ステップの「**Type**」を選択します。
    - 「Users can review the current revision.」
    - 「Users can review and edit (replace) the current revision.」
    - 「Users can review the current revision or create new revisions.」
16. 「**Add Token**」をクリックします。

    「Add Token to Step」画面が表示されます。
17. ステップのレビューア・トークンを選択します。
    - ある範囲のトークンを選択するには、1 つのトークンをクリックした後、[Shift] キーを押しながら別のトークンをクリックします。
    - 個々のトークンを選択するには、[Ctrl] キーを押しながら各トークンをクリックします。
18. 「**OK**」をクリックします。
19. 「**Exit Conditions**」タブをクリックします。
20. リビジョンを次のステップに渡す前に何人のレビューアの承認が必要かを指定します。
    - 全レビューアの承認を必要とする場合は、「**All reviewers**」を選択します。
    - リビジョンを承認する必要がある最低限のレビューア数を指定するには、「**At least this many reviewers**」を選択し、人数を入力します。

注意：「**At least this many reviewers**」フィールドに 0（ゼロ）を入力すると、リビジョンがそのステップに到達しているが、レビューアはそのステップではリビジョンを承認、却下または編集できないことをレビューアに通知できます。ワークフローは次のステップに自動的に渡されます。

21. 次のステップに渡す前に追加の終了条件を満たす必要がある場合は、次の手順を実行します。
    a. 「**Use Additional Exit Condition**」チェック・ボックスを選択します。
    b. 「**Edit**」をクリックします。
    c. 「Edit Additional Exit Condition」画面が表示されます。
    d. メタデータ・フィールドを「**Field**」選択リストから選択します。
    e. 演算子を「**Operator**」選択リストから選択します。
    f. 値を「**Value**」選択リストから選択します。
    g. 「**Add**」をクリックして条件文を条件句に追加します。
    h. 必要なすべての条件に対してこの手順を繰り返します。
    i. 条件式を編集するには、「**Custom Condition Expression**」チェック・ボックスを選択し、スクリプトを編集します。
    j. 「**OK**」をクリックします。

注意 : 終了条件は、メタデータがワークフロー・ステップ中に外部プロセスによって変更される可能性がある場合に便利です。

22. 必要なカスタム・スクリプトをエントリ・イベントに追加します。

重要 : このカスタム・スクリプトは、各コラボレーション・ワークフローの最初のステップに必要です。このスクリプトは、他のワークフロー・ステップには追加しないでください。

   a. **「Events」**タブをクリックします。
   b. 「Entry」フィールドの横にある**「Edit」**ボタンをクリックします。
   c. 「Edit Script」画面が表示されます。**「Custom」**タブをクリックします。
   d. **「Custom Script Expression」**チェック・ボックスを選択します。
   e. 次のスクリプトを入力します。

```
<$exec inc("prj_token_init_script")$>
```

   f. **「OK」**をクリックします。

注意 : 複数のコラボレーション・ワークフローを作成する場合は、このエントリ・イベント・スクリプトのスクリプト・テンプレートを作成することをお薦めします。詳細は、『Oracle Universal Content Management ワークフロー・インプリメンテーション・ガイド』を参照してください。

23. ワークフローで追加の条件ステップまたは特別な処理が必要な場合は、適切なスクリプトを「Events」タブで追加します。
24. **「OK」**をクリックします。
25. 必要に応じてステップを追加、編集および削除してワークフローを完成します。
    - 別のステップをワークフローに追加するには、手順 13 ～ 24 を繰り返します。
    - 既存のステップを編集するには、そのステップを選択して**「Edit」**をクリックします。
    - 既存のステップを削除するには、そのステップを選択して**「Delete」**をクリックします。
26. 対象のコラボレーション・ワークフローが左ペインで選択されていることを確認し、**「Enable」**をクリックします。

    確認画面が表示されます。
27. **「Yes」**をクリックし、選択したワークフローをアクティブにします。

指定した基準を満たすコンテンツ・アイテムがワークフローに自動的に挿入されます。

関連項目

– コラボレーション・ワークフローの概要（4-2 ページ）
– ワークフロー・トークンの設定（4-4 ページ）

5

プロジェクト管理

概要

この章では、プロジェクト管理について説明します。内容は次のとおりです。

❖ プロジェクト管理の概要（5-1 ページ）

❖ プロジェクトの管理（5-8 ページ）

プロジェクト管理の概要

Collaboration Manager の管理ページでは、コラボレーション・プロジェクトの設定の表示、定義済のプロジェクト・ルートの確認およびプロジェクトの現在のリストのチェックを実行できます。

各ページには、次の場所から特定のページを選択することでアクセスできます。

❖ 「Administration」トレイの「Collaboration Projects」フォルダ（5-2 ページの「管理ページへのアクセス」を参照）

❖ 各ページの「Actions」プルダウン・メニュー（5-2 ページの「「Actions」プルダウン・メニュー」を参照）

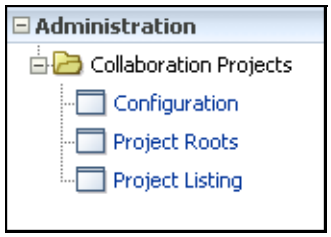
Collaboration Manager には、次の管理ページがあります。

❖ 「Configuration」ページ（5-3 ページ）

❖ 「Project Roots」ページ（5-6 ページ）

❖ 「Project Listing」ページ（5-7 ページ）

管理ページへのアクセス

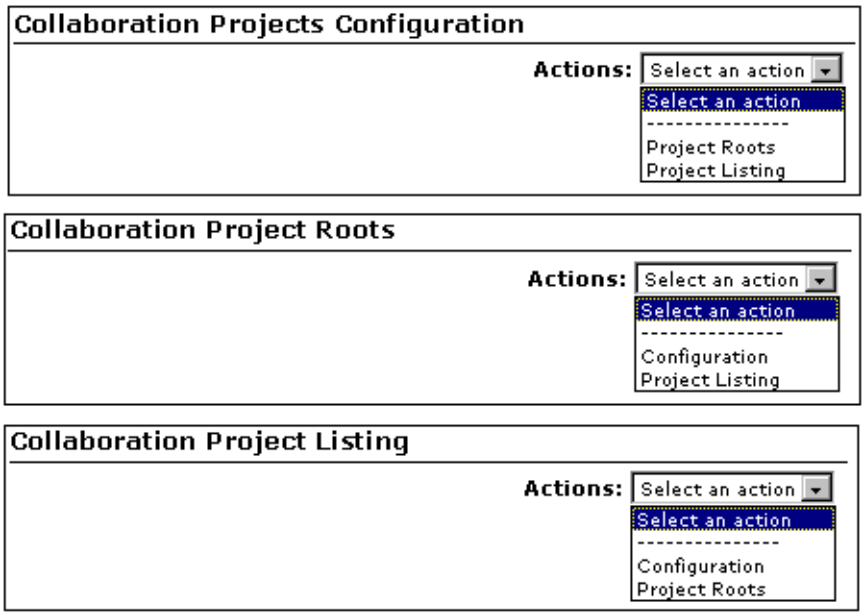


「Collaboration Projects」の管理ページにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ペインで「**Administration**」トレイをクリックします。
2. 「**Collaboration Projects**」フォルダを開きます。
3. 対象のページ・リンクを選択します。

   目的のページが表示されます。

「Actions」プルダウン・メニュー



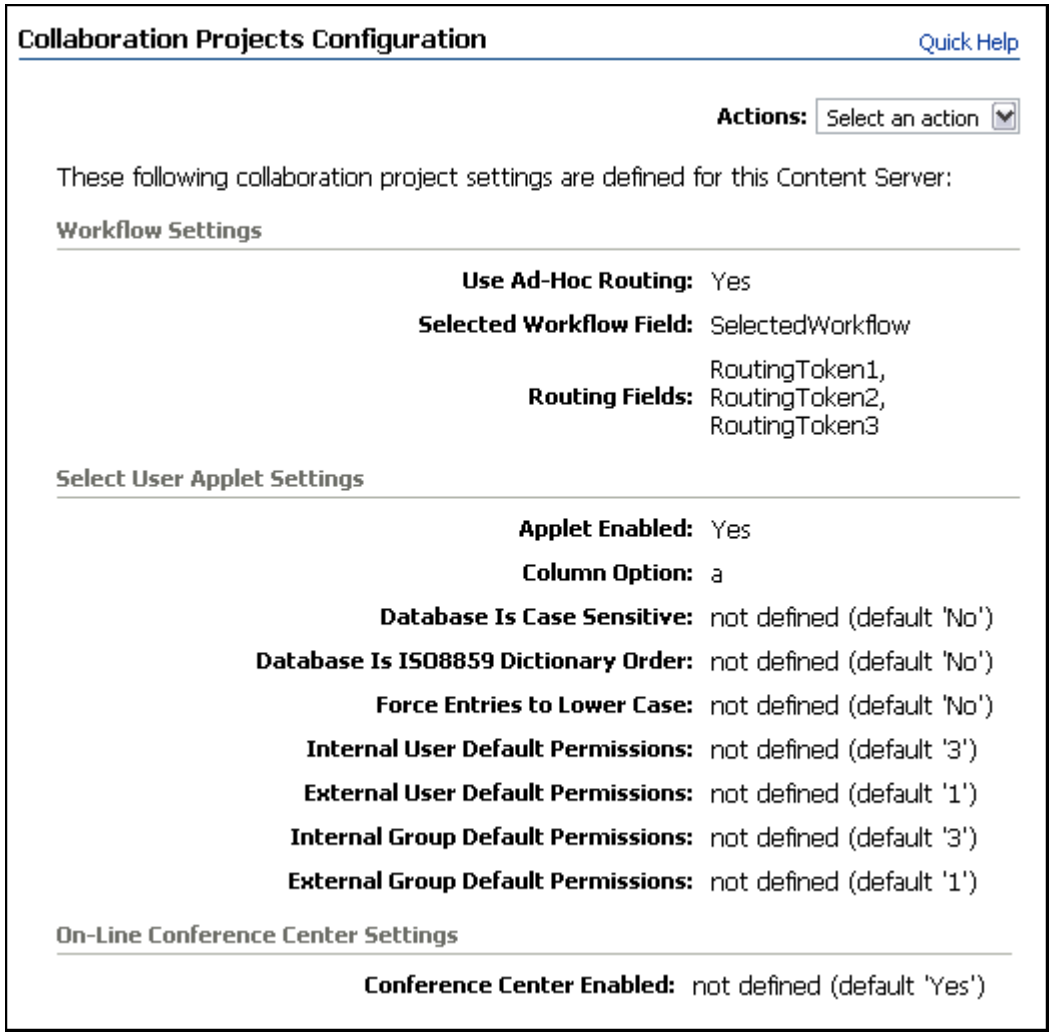
「Collaboration Projects」の各管理ページの右上にある「Actions」プルダウン・リストを使用すると、「Collaboration Projects」の他の管理ページにアクセスできます。

「Collaboration Projects」の他の管理ページにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 「Actions」プルダウン・リスト・ボックスの矢印をクリックします。
2. 対象のオプションを選択します。

   選択した管理ページが表示されます。

「Configuration」ページ



「Configuration」ページでは、Collaboration Manager の設定を表示できます。5-8 ページの「Collaboration Manager の設定の表示」を参照してください。

次の表の「構成設定」列は、次のファイルに設定されている構成変数に対応しています。

<install_dir>/*<instance>*/data/components/CollaborationManager/config.cfg

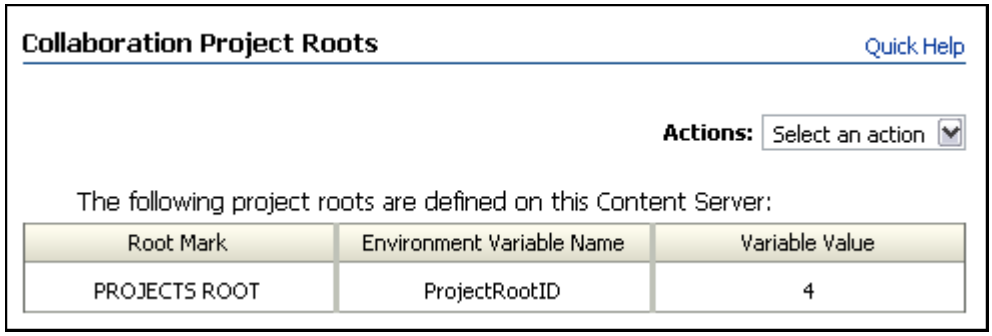
設定が特に定義されていない場合は、デフォルト値が示されています。これらの構成設定の詳細は、『Collaboration Manager Installation Guide』を参照してください。

機能	構成設定	説明
Workflow Settings		
Use Ad-Hoc Routing	prjUseCustomRouting	ユーザー定義のコンテンツ・アイテムのルーティングが有効かどうかを示します。
Selected Workflow Field	prjWizardWorkflowField	コラボレーション・ワークフローで基準フィールドとして使用するメタデータ・フィールドの名前を示します。
Routing Fields	prjWizardTokens	ワークフロー・トークンとして定義されているメタデータ・フィールドの名前を示します。
Select User Applet Settings		
Applet Enabled	UseUserSelectApplet	「Select Member」アプレットが有効かどうかを示します。Apple Macintosh システムを使用している場合は、このオプションが有効でも「Select User」アプレットは表示されません。かわりに、類似の機能を持つポップアップ・アプリケーションを使用します。
Column Option	UserSelectAppletColumn Option	「Select Member」アプレットでのユーザー列およびグループ列の表示順とソート順を示します。各設定の組合せは次のとおりです。

設定	ユーザー列		グループ列	
	最初の（ソート）列	2番目の列	最初の（ソート）列	2番目の列
a	dFullName	dName	dAlias	dAliasDescription
b	dFullName	dName	dAliasDescription	dAlias
c	dName	dFullName	dAlias	dAliasDescription
d	dName	dFullName	dAliasDescription	dAlias

機能	構成設定	説明
Database is Case Sensitive	UserSelectAppletDatabaseCase Sensitive	大 / 小文字を区別するデータベースに対して構成設定が有効にされているかどうかを示します。
Database is ISO8859 Dictionary Order	UserSelectAppletDatabaseIso 8859DictionaryOrder	SQL Server データベースに対して構成設定が有効にされているかどうかを示します。
Force Entries to Lower Case	UserSelectAppletForceEntries ToLowerCase	変更されたデータベース問合せに対して構成設定が有効にされているかどうかを示します。
Internal User Default Permissions	UserSelectAppletInternalUser DefaultPermissions	「Select Member」アプレットでデフォルトで選択される権限のコードを示します。使用できる値は次のとおりです。 **値権限** 1 読取り 3 読取り、書込み 7 読取り、書込み、削除 15 読取り、書込み、削除、管理
External User Default Permissions	UserSelectAppletExternalUser DefaultPermissions	
Internal Group Default Permissions	UserSelectAppletInternalAlias DefaultPermissions	
External Group Default Permissions	UserSelectAppletExternalAlias DefaultPermissions	
On-Line Conference Center Settings		
Conference Center Enabled	DisableMeetingCenter	オンライン会議機能が有効かどうかを示します。

「Project Roots」ページ



プロジェクト・ルートは、Collaboration Manager システムの最上位フォルダを定義します。各コラボレーション・プロジェクトは、プロジェクト・ルート・フォルダ内に作成されます。プロジェクト・ルートは、プロジェクト関連のフォルダ構造の編成に役立ちます。このページの主な目的は、インストール・プログラムでルートが設定されなかった場合に、ルートを設定できるようにすることです。PROJECTS ROOT はインストーラで設定されるため、これは主にカスタム・ルートに該当します。

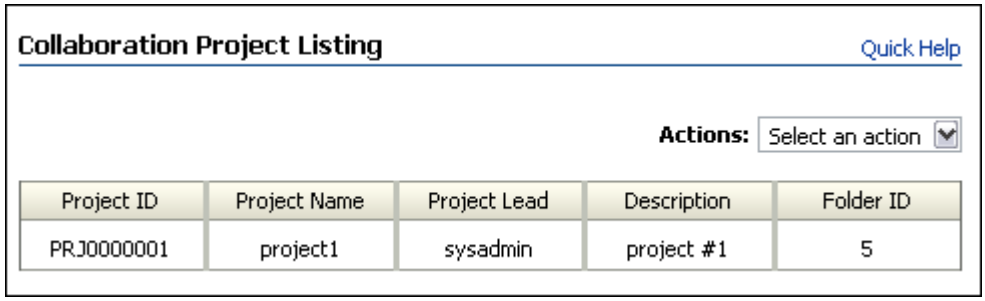
「Project Roots」ページは次の操作に使用されます。

- プロジェクト・ルートの表示。5-8 ページの「プロジェクト・ルートの表示」を参照してください。
- カスタム・プロジェクト・ルートの設定。5-9 ページの「プロジェクト・ルートの構成」を参照してください。

機能	説明
「Root Mark」列	ルート・フォルダの *dCollectionMark* の値（特別なフォルダを識別するプロパティ）を示します。Collaboration Manager のデフォルトのルート・マークは PROJECTS ROOT です。
「Environment Variable Name」列	*dCollectionMark* の値に対応するコレクション ID（*dCollectionID*）の値を格納する変数名を示します。Collaboration Manager のデフォルト値は ProjectRootID です。

機能	説明
「Variable Value」列	ルート・フォルダのコレクション ID（*dCollectionID*）の値を示します。これは、Folders コンポーネントで割り当てられる内部番号です。 フォルダ名がプロジェクト・ルートに対して定義されていない場合は、リンクをクリックするとプロンプト・ダイアログ・ボックスが表示され、このボックスでフォルダ名を設定できます（このフォルダ名は、Folders コンポーネントのルート・レベルで表示されます）。

「Project Listing」ページ



「Project Listing」ページでは、Collaboration Manager のすべてのプロジェクトのリストを表示できます。この画面には次の情報が表示されます。

機能	説明
「Project ID」列	Collaboration Manager の各プロジェクトのプロジェクト ID を示します。このリストはプロジェクト ID の昇順でソートされます。
「Project Name」列	各プロジェクトの名前を示します。
「Project Lead」列	各プロジェクトのプロジェクト・リードを示します。
「Description」列	各プロジェクトの説明を示します。
「Folder ID」列	各プロジェクトに割り当てられた ID 番号を示します。

プロジェクトの管理

コラボレーション・プロジェクトの管理では、いくつかのタスクが関連しています。この項の内容は、次のとおりです。

- Collaboration Manager の設定の表示（5-8 ページ）
- プロジェクト・ルートの表示（5-8 ページ）
- プロジェクト・ルートの構成（5-9 ページ）
- Collaboration Manager のプロジェクト・リストの表示（5-10 ページ）

Collaboration Manager の設定の表示

Collaboration Manager の構成設定を表示するには、次の手順を実行します。

1. Collaboration Manager にシステム管理者としてログインします。
2. ナビゲーション・ペインで「**Administration**」トレイをクリックします。
3. 「**Collaboration Projects**」フォルダを開きます。
4. 「**Configuration**」ページ・リンクを選択します。

   「Configuration」ページ（5-3 ページ）に Collaboration Manager の設定が表示されます。

プロジェクト・ルートの表示

Collaboration Manager のプロジェクト・ルートを表示するには、次の手順を実行します。

1. Collaboration Manager にシステム管理者としてログインします。
2. ナビゲーション・ペインで「**Administration**」トレイをクリックします。
3. 「**Collaboration Projects**」フォルダを開きます。
4. 「**Project Roots**」ページ・リンクを選択します。

   「Project Roots」ページ（5-6 ページ）に Collaboration Manager の設定が表示されます。

   名前が未設定のルート・フォルダがある場合、「Variable Value」列に「**setup**」リンクが表示されます。詳細は、5-9 ページの「プロジェクト・ルートの構成」を参照してください。

プロジェクト・ルートの構成

注意：カスタム・プロジェクト・ルートを構成するときは、プロジェクトをカスタム・ルート・フォルダに割り当てるために、Content Server のコンポーネントの追加のカスタマイズが必要な場合があります。この処理は、Oracle コンサルティング・サービスによるカスタマイズの一環として実行することをお薦めします。

Collaboration Manager のプロジェクト・ルートを構成するには、次の手順を実行します。

1. テキスト・エディタで、次のファイルを開きます。

   <*install_dir*>/<*instance*>/data/components/CollaborationManager/config.cfg

2. 新しいプロジェクト・ルートを定義する行を次のとおり追加します。

   ```
   projectRoots=dCollectionMark,variable
   [; dCollectionMark,variable ...
   [; dCollectionMark,variable]]
   ```

   ここで、

   - *dCollectionMark* は、プロジェクト・ルート・フォルダを識別する一意の名前です。
   - *variable* は、プロジェクト・ルート・フォルダに対応する *dCollectionID* を格納する変数名です。

   次はその例です。

   ```
   projectRoots=PROJ ROOT,ProjRootID;OTHER ROOT,OtherRootID
   ```

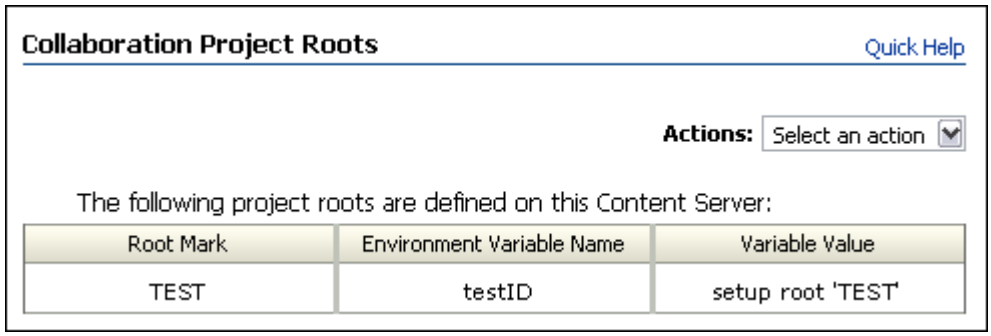
3. ファイルを保存して閉じます。
4. Content Server を再起動します。
5. ナビゲーション・ペインで「**Administration**」トレイをクリックします。
6. 「**Collaboration Projects**」フォルダを開きます。
7. 「**Project Roots**」ページ・リンクを選択します。

   「Project Roots」ページ（5-6 ページ）が開き、プロジェクト・ルートを設定するリンクが「Variable Value」列に表示されます。

注意：プロジェクト・ルートが定義されていても、そのルートのフォルダがシステム上に存在しない場合は、適切なフォルダ・サービスを起動してルートを設定するリンクが「Variable Value」列に表示されます。

たとえば、'`projectRoots=TEST,testID`' という行を config.cfg ファイルに追加してサーバーを再起動すると、「Project Roots」ページの「Variable Value」フィールドに 'setup root TEST' リンクが表示されます。

図 5-1　「Collaboration Project Roots」画面



8. 新しいプロジェクト・ルートに対し、「Variable Value」列で「**setup root <*root mark*>**」リンクをクリックします。

   ルート・フォルダ名の入力を要求されます。

9. ルート・フォルダの名前を入力します。このフォルダ名は、Folders コンポーネントのルート・レベルで表示されます。

10. 「**OK**」をクリックします。

    新しいルート・フォルダの *dCollectionID* の値（フォルダ ID）が「Variable Value」列に表示されます。

Collaboration Manager のプロジェクト・リストの表示

Collaboration Manager 内のすべてのプロジェクトのリストを表示するには、次の手順を実行します。

1. Collaboration Manager にシステム管理者としてログインします。
2. ナビゲーション・ペインで「**Administration**」トレイをクリックします。
3. 「**Collaboration Projects**」フォルダを開きます。
4. 「**Project Listing**」ページ・リンクを選択します。

A

セキュリティの詳細

概要

この付録では、様々な Collaboration Manager 機能を実行するために必要な**最小**の権限について説明します。この情報は、管理者が特別な場合のセキュリティ構成を作成する際、およびトラブルシューティングの際に役立ちます。

注意 : 柔軟性を最大限にし、システム管理者の関与を最小限にするには、ユーザーに Collaboration Manager への広範なシステムレベルのアクセス権を付与し、その後、ワークグループ・メンバーがプロジェクト、フォルダおよびドキュメントのレベルで権限の割当てを実行できるようにします。詳細は、3-8 ページの「広範な権限（ベスト・プラクティス）」を参照してください。

この付録の内容は、次のとおりです。

- 最大権限の概要（A-2 ページ）
- 最小権限の概要（A-2 ページ）
- 機能別のセキュリティ（A-3 ページ）
- セキュリティの例（A-13 ページ）

3-7 ページの「EnableForcedACLSecurity を使用したセキュリティの変更」で説明されているとおり、`EnableForcedACLSecurity` 構成変数を使用して、コラボレーション・プロジェクトのセキュリティの動作を変更できます。管理者は、`EnableForcedACLSecurity` 構成変数を使用することで、フォルダ、プロジェクトおよびコンテンツなどのプロジェクトの状況に対して設定されている特定の権限に排他的に依存するようセキュリティを設定できます。

この変数の影響については、セキュリティ設定に関する各項で説明します。

最大権限の概要

ベスト・プラクティスでは、管理者はユーザーに Collaboration Manager に対する最大限のシステムレベルのアクセス権を付与し、その後、コラボレーション・プロジェクト・リーダーがプロジェクト、フォルダおよびコンテンツ・アイテムに対する権限の割当てを実行できるようにします。このモデルを使用すると、次の権限が割り当てられます。

- プロジェクトを作成するサブ管理者の場合 : Projects セキュリティ・グループに対する RWDA 権限および prj アカウントに対する RWDA 権限
- プロジェクトを作成できるコントリビュータの場合 : Projects セキュリティ・グループに対する RWD 権限および prj アカウントに対する RWDA 権限
- プロジェクトは作成できないが、プロジェクトに参加する個々のコントリビュータの場合 : Projects セキュリティ・グループに対する RWD 権限および prj アカウントに対する RWD 権限

広範な権限の詳細は、『Collaboration Manager System Administration Guide』を参照してください。

最小権限の概要

Collaboration Manager では、多くの機能はユーザー・インタフェースの複数の場所から実行できます。この結果、アイテムへのアクセス方法に応じて、同じ機能の実行に異なる権限が必要となる場合があります。

たとえば、ユーザーがコンテンツ・アイテムを表示する権限を持っていても、コンテンツ・アイテムが含まれているプロジェクトまたはフォルダを表示する権限を持たない場合、「Browse Content」トレイでコンテンツ・アイテムへのドリルダウンは実行できません。ただし、検索結果ページ、ワークフロー通知、サブスクリプション通知などのユーザー・インタフェースの多くの場所からコンテンツ・アイテムにアクセスできます。

A-3 ページの「機能別のセキュリティ」では、異なるインタフェースの場所からタスクを実行する場合の最小権限が異なる箇所について説明しています。

機能別のセキュリティ

セキュリティを割り当てることができる主領域は、次の 3 つです。

❖ プロジェクトのセキュリティ（A-3 ページ）

❖ プロジェクトのフォルダ・セキュリティ（A-6 ページ）

❖ コンテンツ・アイテムのセキュリティ（A-9 ページ）

プロジェクトのセキュリティ

プロジェクト機能を実行するユーザーの権限は、セキュリティ・グループ、アカウント権限**および**特定のプロジェクトに対する権限によって決まります。

❖ システム管理者は、すべてのユーザーにシステムレベルのセキュリティ（ロールおよびアカウント）を割り当てます。

❖ プロジェクト権限は、プロジェクト・リードまたはプロジェクトに対する管理権限を持つユーザーによって割り当てられます。

プロジェクト最小権限

この項では、プロジェクト機能を実行するために必要な**最小**権限について説明します。

❖ admin ロールを持つユーザーは、プロジェクト機能を実行するためのプロジェクトに対する特別な権限は必要ありません。通常、prj アカウントに対する管理ユーザーの権限により、実行できる機能が決まります。

❖ デフォルトでは、プロジェクト・リードにプロジェクトに対する RWDA 権限があります。プロジェクト・リードのプロジェクト権限は変更できません。

❖ デフォルトでは、プロジェクトを作成するユーザーには、プロジェクトに対する RWDA 権限があります。このユーザーは、プロジェクトに対する自分の権限を変更できませんが、そのプロジェクトに対する管理権限を持つ別のユーザーがかわりに権限を変更できます。

次の表では、セキュリティ権限に対する admin ロールの影響についてのみ示します。`EnableForcedACLSecurity` 構成変数は、admin ロールの権限に反映されません。

この表を解釈するには、次の文が役に立ちます。

> < **機能を実行する場所** > で < **プロジェクト機能** > を実行するには、admin ロールを持っている < **持っていない** > 場合、**この**権限が必要です。

次はその例です。

「**My Projects**」ページで**プロジェクトを表示**するには、admin ロールを**持っている**場合、セキュリティ・グループ、prj アカウント、プロジェクト・アカウントまたはプロジェクトに対する**権限は不要**です。

「**My Projects**」ページで**プロジェクトを表示**するには、admin ロールを**持っていない**場合、Projects セキュリティ・グループ、prj アカウントおよびプロジェクトに対する**読取り**権限が必要です。

プロジェクト機能	機能を実行する場所	admin ロールがあるか	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	特定のプロジェクトに対する権限
プロジェクトの表示	「My Projects」ページ、「Find Projects Results」ページ、「Trash」	はい	なし	なし	なし
		いいえ	R	R	R
	「Exploring "name"」ページ	はい	なし	R	なし
		いいえ	R	R	R
プロジェクトに対するコンテンツのチェックインおよびチェックアウト	「Exploring "name"」ページ	はい	なし	RW	なし
		いいえ	RW	RW	RW
プロジェクトのメタデータの更新	「Edit Collaboration Project」ページ、「Project Information」ページ	はい	なし	RW	なし
		いいえ	RW	RW	RWDA
プロジェクト・メンバーの更新	「Members」ページ、「Edit Project」	はい	なし	RW	なし
		いいえ	RW	RW	RWDA

プロジェクト機能	機能を実行する場所	admin ロールがあるか	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	特定のプロジェクトに対する権限
プロジェクトの削除	「My Projects」ページ、「Find Projects Results」、「Trash」	はい	なし	RWD	なし
		いいえ	RWD	RWD	RWDA
プロジェクトの追加	「Create New Project」リンク	はい	なし	なし	N/A
		いいえ	RW	RWDA	N/A
プロジェクトのリストア	「Trash」	はい	なし	RW	元のプロジェクトの場合は RW
		いいえ	RW	RW	元のプロジェクトの場合は RW

ユーザーは、プロジェクトを追加するには Projects セキュリティ・グループに対する権限は必要ありませんが、コンテンツを表示するには R 権限が必要で、プロジェクトに投稿するには RW 権限が必要です。通常、プロジェクトを追加する必要があるユーザーには、Projects セキュリティ・グループに対し、より広範な権限（RW）があることが望まれます。

「Trash」へのプロジェクトの送信は移動とみなされ、必要な権限はプロジェクトの削除に必要な権限より少なくなります。

関連項目

– Collaboration Manager ユーザーの設定（3-8 ページ）
– プロジェクト作成の例（A-14 ページ）
– プロジェクト機能の例（A-14 ページ）

プロジェクトのフォルダ・セキュリティ

フォルダ機能を実行するユーザーの権限は、セキュリティ・グループ、アカウント権限および特定のフォルダに対する権限によって決まります。

- システム管理者は、すべてのユーザーにシステムレベルのセキュリティ（ロールおよびアカウント）を割り当てます。
- フォルダ権限は、フォルダ所有者またはフォルダに対する管理権限を持つユーザーによって割り当てられます。

フォルダ最小権限

この項では、フォルダ機能を実行するために必要な**最小**権限について説明します。

- デフォルトの admin ロール（Projects セキュリティ・グループに対する RWDA）を持つユーザーは、特定のプロジェクトおよびフォルダに対する権限に関係なく、あらゆるフォルダに対してすべての機能を実行できます。
- admin ロールが割り当てられても、prj アカウントに対する権限は自動的には付与されません。別に割り当てる必要があります。
- デフォルトでは、フォルダ所有者にフォルダに対する RWDA 権限があります。フォルダ所有者の権限は変更できません。
- デフォルトでは、フォルダを作成するユーザーには、フォルダに対する RWDA 権限があります。このユーザーは、フォルダに対する自分の権限を変更できませんが、そのフォルダに対する管理権限を持つ別のユーザーがかわりに権限を変更できます。

`EnableForcedACLSecurity=FALSE` の場合、次の表で説明されている動作は有効です。

`EnableForcedACLSecurity=TRUE` で、**なおかつ**ユーザーに admin ロールが**割り当てられている**場合、次の表で説明されている動作は有効です。

`EnableForcedACLSecurity=TRUE` で、ユーザーに admin ロールが**割り当てられていない**場合、管理権限（セキュリティ・グループに対する RWDA 権限の **A**）のみでは、様々なフォルダ操作権限を付与できません。フォルダ権限およびコンテンツ・アイテム権限を持つ必要がないのは、admin ロールを持つユーザーのみです。したがって、プロジェクトまたはフォルダに対して特定の権限が必要になります。RWD**A** とマークされたエントリは、admin ロールが使用されていないために特定の権限が必要であることを示します。

たとえば、ユーザーに Projects セキュリティ・グループに対する RWDA 権限がある場合でも、この変数を有効にすると、フォルダ権限およびコンテンツ・アイテム権限がそのユーザーに適用されます。したがって、特定のフォルダのメタデータを更新するには、そのフォルダに対する RW 権限が必要になります。

この表を解釈するには、次の文が役に立ちます。

< **機能を実行する場所** > で < **フォルダ機能** > を実行するには、**この**権限が必要です。

次はその例です。

フォルダのリストアを「**Trash**」ページから実行するには、Projects セキュリティ・グループに対する RW 権限、prj アカウントに対する RW 権限、元の親フォルダに対する RW 権限およびリストアするフォルダに対する RW 権限が必要ですが、プロジェクトに対する権限は不要です。

フォルダ機能	機能を実行する場所	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	プロジェクトに対する権限	特定のフォルダに対する権限
フォルダの表示	「Trash」	R	R	なし	R
		RWD**A**	R	なし	なし
	「Exploring "name"」ページ	R	R	R	R
		RWD**A**	R	R	なし
フォルダに対するコンテンツのチェックインおよびチェックアウト	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R（後述の「**セキュリティの注意**」を参照）	RW
フォルダのメタデータの更新	「Hierarchy Folder Config」ページ	RW	RW	R	RW
		RWD**A**	RW	R	なし
フォルダ・メンバーの更新（後述の「**権限の注意**」を参照）	「Hierarchy Folder Config」ページ	RW	RW	R	RWDA
		RWD**A**	RW	R	なし
フォルダの削除	「Exploring "name"」ページ、「Trash」	RWD	RWD	R	RWD
		RWD**A**	RWD	R	なし
フォルダの追加	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	親フォルダ / プロジェクトの場合は RW
		RWD**A**	RW	R	なし

フォルダ機能	機能を実行する場所	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	プロジェクトに対する権限	特定のフォルダに対する権限
フォルダのリストア	「Trash」	RW	RW	なし	元の親フォルダの場合は RW、リストアするフォルダの場合は RW
フォルダの移動	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	親フォルダの場合は R、ターゲット・フォルダの場合は RW、移動するフォルダの場合は RW
フォルダのショートカットの作成	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	元のフォルダの場合は R、ターゲット・フォルダの場合は RW
フォルダのショートカットの削除	「Exploring "name"」ページ	RW	R	R	ショートカットを含むフォルダの場合は R

セキュリティの注意 : `CollaborationUseLegacySecurity` 構成変数が TRUE に設定されている場合、セキュリティはバージョン 7.0 と同様になり、（R に対し）RW を付与するサブフォルダにコンテンツを投稿するには、ユーザーはプロジェクトに対して RW 権限が必要です。

権限の注意 : `EnableForcedACLSEcurity=true` の場合、フォルダに対して必要な権限は RWDA ではなく RW です。

関連項目

– フォルダ作成の例（A-15 ページ）
– フォルダ機能の例（A-16 ページ）
– Collaboration Manager ユーザーの設定（3-8 ページ）

コンテンツ・アイテムのセキュリティ

注意 : コンテンツ・アイテムのセキュリティは、ディスカッション・アイテムにも適用されます。ディスカッションへの投稿は、コンテンツ・アイテムのチェックインと同じ機能です。

コンテンツ・アイテム機能を実行するユーザーの権限は、セキュリティ・グループ、アカウント権限**および**コンテンツ・アイテムに対する権限によって決まります。

- システム管理者は、すべてのユーザーにシステムレベルのセキュリティ（ロールおよびアカウント）を割り当てます。
- コンテンツ・アイテム権限は、作成者またはコンテンツ・アイテムに対する管理権限を持つユーザーによって割り当てられます。

コンテンツ・アイテム最小権限

この項では、コンテンツ・アイテム機能を実行するために必要な**最小**権限について説明します。

- admin ロールを持つユーザーは、特定のプロジェクト、フォルダおよびコンテンツ・アイテムに対する権限に関係なく、あらゆるコンテンツ・アイテムに対してすべての機能を実行できます。唯一の例外は、「Exploring "name"」ページでコンテンツ・アイテムを表示するために親フォルダに対する読取り権限が必要なことです。
- デフォルトでは、コンテンツ・アイテムの作成者に、アイテムに対する RWDA 権限があります。作成者の権限は変更できません。
- デフォルトでは、コンテンツ・アイテムをチェックインするユーザーに、アイテムに対する RWDA 権限があります。このユーザーは、コンテンツ・アイテムに対する自分の権限を変更できませんが、そのコンテンツ・アイテムに対する管理権限を持つ別のユーザーがかわりに権限を変更できます。

`EnableForcedACLSecurity=FALSE` の場合、次の表で説明されている動作は有効です。

`EnableForcedACLSecurity=TRUE` で、**なおかつ**ユーザーに admin ロールが**割り当てられている**場合、次の表で説明されている動作は有効です。

`EnableForcedACLSecurity=TRUE` で、ユーザーに admin ロールが**割り当てられていない**場合、各コンテンツ・アイテムに対するエンティティのアクセス・リストの権限により、セキュリティ・グループおよびアカウントの Content Server の標準のセキュリティ・モデルが補強されます。エンティティのアクセス・リストで設定されたフォルダ権限およびコンテンツ・アイテム権限を持つ必要がないのは、admin ロールを持つユーザーのみです。したがって、プロジェクトまたはフォルダに対して特定の権限が必要になります。RWD**A** とマークされたエントリは、admin ロールが使用されていないために特定の権限が必要であることを示します。

たとえば、ユーザーに Projects セキュリティ・グループに対する RWDA 権限がある場合でも、この変数を有効にすると、フォルダ権限およびコンテンツ・アイテム権限がそのユーザーに適用されます。したがって、特定のフォルダのメタデータを更新するには、そのフォルダに対する RW 権限が必要になります。

この表を解釈するには、次の文が役に立ちます。

< **機能を実行する場所** > で < **コンテンツ・アイテム機能** > を実行するには、**この権限**が必要です。

次はその例です。

「Search Results」ページで**アイテムを表示**するには、Projects、prj アカウントおよびコンテンツ・アイテムに対する**読取り**権限を持っている場合、親フォルダまたはプロジェクトに対する権限は不要です。

コンテンツ・アイテム機能	機能を実行する場所	**Projects セキュリティ・グループに対する権限**	**prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限**	**親フォルダまたはプロジェクトに対する権限**	コンテンツ・アイテムに対する権限
コンテンツ・アイテムの表示	「Search results」ページ、通知の電子メール、「Trash」	R	R	なし	R
		RWD**A**	R	なし	なし
	「Exploring "name"」ページ	R	R	R	R
		RWD**A**	R	R	なし

コンテンツ・アイテム機能	機能を実行する場所	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	親フォルダまたはプロジェクトに対する権限	コンテンツ・アイテムに対する権限
コンテンツ・アイテムのチェックアウト	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	RW
		RWD**A**	RW	プロジェクトの場合は R、サブフォルダの場合はなし	なし
	「Dashboard」、「Content Information」ページ、「Workflow Content」ページ	RW	RW	プロジェクトの場合は R、サブフォルダの場合はなし	RW
		RWD**A**	RW	R	なし
新規コンテンツ・アイテムのチェックイン	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	RW	RWDA（作成者には自動的に割当て）
		RWD**A**	RW	R	RWDA（作成者には自動的に割当て）
コンテンツ・アイテムのリビジョンのチェックイン	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	RW	RW
		RWDA	RW	R	なし
コンテンツ・アイテムのメンバーの更新	「Info Update Form」	RW	RW	RW	RWDA
		RWD**A**	RWDA	なし	なし

コンテンツ・アイテム機能	機能を実行する場所	Projects セキュリティ・グループに対する権限	prj アカウントまたは特定のプロジェクト・アカウントに対する権限	親フォルダまたはプロジェクトに対する権限	コンテンツ・アイテムに対する権限
コンテンツ・アイテムの削除	「Exploring "name"」ページ	RWD	RWD	R	RWD
		RWD**A**	RWD	R	なし
	「Content Information」ページ、「Trash」	RWD	RWD	なし	RWD
		RWD**A**	RWD	なし	なし
他のユーザーに対するチェックイン	「Exploring "name"」ページ	RWD**A**	RWDA	R	なし
コンテンツ・アイテムのリストア	「Trash」	RW	RW	元の親フォルダの場合は RW	RW
コンテンツ・アイテムの移動	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	ターゲット・フォルダの場合は RW、コンテンツ・アイテムの場合は RW
コンテンツ・アイテムのショートカットの作成	「Exploring "name"」ページ	RW	RW	R	コンテンツ・アイテムの場合は R、ターゲット・フォルダの場合は RW
		RWD**A**	RWDA	R	コンテンツ・アイテムの場合は R、ターゲット・フォルダの場合はなし
コンテンツ・アイテムのショートカットの削除	「Exploring "name"」ページ	RWD	RWD	R	コンテンツの場合は RWD
		RWD**A**	R	なし	なし

「Trash」が有効な場合、コンテンツ・アイテムの削除は移動とみなされ、必要な権限は少なくなります。

関連項目

– コンテンツ・チェックインの例（A-18 ページ）
– コンテンツ機能の例（A-19 ページ）
– Collaboration Manager ユーザーの設定（3-8 ページ）

セキュリティの例

この例では、次のプロファイルを持つコントリビュータおよびサブ管理者として、複数の内部ユーザーを Collaboration Manager で設定されています。

ユーザー名	ロール	Projects セキュリティ・グループの権限	prj アカウントの権限	管理権限
sysadmin	admin	RWDA	RWDA	すべて
hchang	subadmin	RWDA	RWDA	ユーザー管理、ワークフロー管理
pkelly	project_creator	RWD	RWDA	なし
rgarcia	contributor	RWD	RWD	なし
sjones	contributor	RWD	RWD	なし
dmarkov	guest	R	R	なし

この例を、次の項でさらに拡張します。

❖ プロジェクト作成の例（A-14 ページ）
❖ プロジェクト機能の例（A-14 ページ）
❖ フォルダ作成の例（A-15 ページ）
❖ フォルダ機能の例（A-16 ページ）
❖ コンテンツ・チェックインの例（A-18 ページ）
❖ コンテンツ機能の例（A-19 ページ）
❖ ディスカッションの例（A-21 ページ）
❖ ワークフローの例（A-22 ページ）

プロジェクト作成の例

このシナリオでは、sysadmin、hchang および pkelly の 3 ユーザーがプロジェクトを作成できます。他の 3 ユーザーは、prj アカウントに対する管理権限を持っていないため、プロジェクトを作成できません。

この例では、hchang は（「**Browse Content**」→「**Manage Project**」→「**New Project**」を使用して）**2004 Annual Report** という名前のプロジェクトを設定します。このプロジェクトには、会社の年次報告書の公開に関するすべてのコンテンツおよび通信が格納されます。次のプロジェクト権限が指定されています。

- pkelly はプロジェクト・リード（RWDA 権限）です。
- rgarcia は RWD 権限を持ちます。
- sjones は RW 権限を持ちます。
- dmarkov は RW 権限を持ちます。

関連項目

– プロジェクトのセキュリティ（A-3 ページ）
– プロジェクト機能の例（A-14 ページ）

プロジェクト機能の例

適切な権限を割り当てた後、ユーザーは 2004 Annual Report プロジェクトに対して次の機能を実行できます。

ユーザー名	プロジェクト機能	説明
sysadmin	すべて	sysadmin ユーザーは、admin ロールと、prj アカウントに対する RWDA を持っているため、すべてのプロジェクト機能を実行できます。
hchang	すべて	プロジェクトを作成したユーザーには、デフォルトで RWDA 権限があります。
pkelly	すべて	プロジェクト・リードには、デフォルトで RWDA 権限があります。
rgarcia	表示、コンテンツのチェックイン	このユーザーには、プロジェクトに対する RWD 権限がありますが、プロジェクトを更新または削除するには管理権限が必要です。

ユーザー名	プロジェクト機能	説明
sjones	表示、コンテンツのチェックイン	プロジェクトに対する RW 権限により、このユーザーは基本プロジェクト・タスクを実行できますが、プロジェクトの更新または削除はできません。
dmarkov	表示	このユーザーには、プロジェクトに対する RW 権限がありますが、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対しては読取り権限しかありません。

関連項目

– プロジェクトのセキュリティ（A-3 ページ）
– プロジェクト作成の例（A-14 ページ）

フォルダ作成の例

2004 Annual Report プロジェクトで、pkelly は（「Exploring Project」ページの「Action」プルダウン・メニューを使用して）2 つの新規フォルダを作成し、そのフォルダに **Design** および **Content** という名前を付けます。Design フォルダはグラフィックおよびレイアウト・ファイル用で、Content フォルダにはテキストおよびスプレッドシート・ドキュメントが格納されます。グラフィックおよびコンテンツのコンテンツ・タイプは事前定義されていることに注意してください。

次のフォルダ権限が指定されています。

ユーザー名	**Design フォルダ権限**	**Content フォルダ権限**
pkelly	フォルダ所有者（RWDA）	フォルダ作成者（RWDA）
rgarcia	RW	フォルダ所有者（RWDA）
sjones	RWDA	RWD
dmarkov	なし	RW

これらのフォルダが作成され、プロジェクトに対する作業が開始されると、大量のコンテンツ・アイテムが Content フォルダにチェックインされます。

関連項目

– プロジェクトのフォルダ・セキュリティ（A-6 ページ）
– フォルダ機能の例（A-16 ページ）

フォルダ機能の例

ユーザーは **Design** フォルダに対して次の機能を実行できます。

ユーザー名	フォルダ機能	説明
sysadmin	すべて	sysadmin ユーザーは admin ロールを持っているため、デフォルトですべてのフォルダ機能を実行できます。
hchang	すべて	このユーザーには、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対する RWDA 権限があります。
pkelly	すべて	フォルダ所有者には、デフォルトで RWDA 権限があります。
rgarcia	フォルダの削除以外すべて	**Design** フォルダに対する RW 権限に加えて、Projects セキュリティ・グループ、prj アカウントおよびプロジェクトに対する RWD を持っているため、このユーザーはほとんどのフォルダ・タスクを実行できます。
sjones	すべて	**Design** フォルダに対する RWDA 権限に加えて、Projects セキュリティ・グループと prj アカウントに対する RWD、およびプロジェクトに対する RW を持っているため、このユーザーはすべてのフォルダ機能を実行できます。
dmarkov	なし	このユーザーはメンバー・リストに含まれていないため、**Design** フォルダを表示できません。

ユーザーは **Content** フォルダに対して次の機能を実行できます。

ユーザー名	フォルダ機能	説明
sysadmin	すべて	sysadmin ユーザーは admin ロールを持っているため、デフォルトですべてのフォルダ機能を実行できます。
hchang	すべて	このユーザーには、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対する RWDA 権限があります。
pkelly	すべて	フォルダを作成したユーザーには、デフォルトで RWDA 権限があります。
rgarcia	すべて	フォルダ所有者には、デフォルトで RWDA 権限があります。
sjones	メンバーの更新以外すべて	**Content** フォルダに対する RWD 権限に加えて、Projects セキュリティ・グループと prj アカウントに対する RWD、およびプロジェクトに対する RW を持っているため、ほとんどのタスクを実行できます。
dmarkov	表示	このユーザーには、**Content** フォルダに対する RW 権限がありますが、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対しては読取り権限しかありません。

関連項目

– プロジェクトのフォルダ・セキュリティ（A-6 ページ）
– フォルダ作成の例（A-15 ページ）

コンテンツ・チェックインの例

プロジェクトおよびフォルダが設定されたため、ユーザーはフォルダへのコンテンツ・アイテムのチェックインを開始できます。

- dmarkov 以外のすべてのユーザーは、プロジェクト・レベルでコンテンツをチェックインできます。
- pkelly、rgarcia および sjones は、Design フォルダおよび Content フォルダにコンテンツをチェックインできます。また、hchang および sysadmin も管理権限を持っているため可能です。

次のコンテンツ・アイテムを 2004 Annual Report プロジェクトにチェックインします。

コンテンツ・アイテム	フォルダ	ファイルをチェックインするユーザー	作成者	アクセス・リスト
プロジェクト・スケジュール	2004 Annual Report	pkelly	pkelly	pkelly（RWDA）、hchang（R）、rgarcia（RW）、sjones（R）、dmarkov（R）
Quark 設計ファイル	Design	pkelly	pkelly	pkelly（RWDA）、sjones（RWDA）、rgarcia（R）
グラフィックの Zip	Design	sjones	sjones	pkelly（RW）、sjones（RWDA）、rgarcia（R）
会計スプレッドシート	Content	sjones	sjones	pkelly（RW）、sjones（RWDA）、rgarcia（RWD）、dmarkov（RW）
年次報告書のテキスト	Content	rgarcia	rgarcia	pkelly（RW）、rgarcia（RWDA）、dmarkov（RW）

関連項目

– コンテンツ機能の例（A-19 ページ）

コンテンツ機能の例

ユーザーは、2004 Annual Report プロジェクトのコンテンツ・アイテムに対して次のアクセス権があります。

<table>
<tr><th>ユーザー名</th><th>コンテンツ・アイテム</th><th>機能</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>sysadmin</td><td>すべて</td><td>すべて</td><td>sysadmin ユーザーは、デフォルトですべてのコンテンツ・アイテム機能を実行できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">hchang</td><td>プロジェクト・スケジュール</td><td>すべて</td><td>このユーザーには、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対する RWDA 権限があります。</td></tr>
<tr><td>Quark 設計ファイル</td><td rowspan="4">すべて</td><td rowspan="4">このユーザーには、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対する RWDA 権限があります。</td></tr>
<tr><td>グラフィックの Zip</td></tr>
<tr><td>会計スプレッドシート</td></tr>
<tr><td>年次報告書のテキスト</td></tr>
<tr><td rowspan="5">pkelly</td><td>プロジェクト・スケジュール</td><td rowspan="2">他のユーザーに対するチェックイン以外すべて</td><td rowspan="2">他のユーザーに対するチェックインには、Projects セキュリティ・グループに対する RWDA 権限が必要です。</td></tr>
<tr><td>Quark 設計ファイル</td></tr>
<tr><td>グラフィックの Zip</td><td rowspan="3">メンバーの更新、コンテンツ・アイテムの削除および他のユーザーに対するチェックイン以外すべて</td><td rowspan="3">コンテンツ・アイテムに対する RW 権限。</td></tr>
<tr><td>会計スプレッドシート</td></tr>
<tr><td>年次報告書のテキスト</td></tr>
</table>

ユーザー名	コンテンツ・アイテム	機能	説明
rgarcia	プロジェクト・スケジュール	メンバーの更新、コンテンツ・アイテムの削除および他のユーザーに対するチェックイン以外すべて	コンテンツ・アイテムに対する RW 権限。
	Quark 設計ファイル	ショートカットの表示および作成	コンテンツ・アイテムに対する R 権限。
	グラフィックの Zip		
	会計スプレッドシート	メンバーの更新および他のユーザーに対するチェックイン以外すべて	コンテンツ・アイテムに対する RWD 権限。
	年次報告書のテキスト	すべて	コンテンツ・アイテムに対する RWDA 権限。
sjones	プロジェクト・スケジュール	ショートカットの表示および作成	コンテンツ・アイテムに対する R 権限。
	Quark 設計ファイル	すべて	コンテンツ・アイテムに対する RWDA 権限。
	グラフィックの Zip		
	会計スプレッドシート		
	年次報告書のテキスト	なし	このユーザーはメンバー・リストに含まれていないため、コンテンツ・アイテムを表示できません。

ユーザー名	コンテンツ・アイテム	機能	説明
dmarkov	プロジェクト・スケジュール	表示	コンテンツ・アイテムに対する R 権限。
	Quark 設計ファイル	なし	このユーザーはメンバー・リストに含まれていないため、これらのコンテンツ・アイテムを表示できません。
	グラフィックの Zip		
	会計スプレッドシート	コンテンツの表示	このユーザーには、コンテンツ・アイテムに対する RW 権限がありますが、Projects セキュリティ・グループおよび prj アカウントに対しては読取り権限しかありません。 このユーザーがコンテンツ・アイテムのショートカットを削除するには、ショートカットと元のコンテンツ・アイテムの両方の親フォルダに対する読取り権限が必要です。
	年次報告書のテキスト		

関連項目

– コンテンツ・チェックインの例（A-18 ページ）

ディスカッションの例

年次報告書の設計が具体化してきたため、sjones はレイアウトの詳細についていくつか話し合うことを希望しています。sjones は、**Quark 設計ファイル**・コンテンツ・アイテムに関連するディスカッションに投稿します。その後、ディスカッションが関連するコンテンツ・アイテムから権限を継承するため、rgarcia が持っているのは読取り権限のみであることに気付きます。sjones はディスカッションに対する管理権限を持っているため、ディスカッションのメンバー・リストを更新し、rgarcia に RW 権限を付与できます。コンテンツ・アイテム権限は変更されないままです。

ワークフローの例

年次報告書の公開準備ができた後は、最終レビューを行う必要があります。pkelly は年次報告書ファイルを **2004 Annual Report** プロジェクトにチェックインし、RW 権限を rgarcia および sjones に割り当て、そのファイルを 3 ステップのワークフローに入れる必要があることを指定します。

- 最初のステップでは、sjones および rgarcia が編集者です。コンテンツ・アイテムに対する RW 権限により、sjones および rgarcia は承認の前にコンテンツ・アイテムをチェックアウトし、編集できます。
- 2 番目のステップでは、pkelly が唯一の編集者です。pkelly は作成者であるため RWDA 権限を持っており、コンテンツ・アイテムを最後にもう一度編集できます。pkelly は、最終レビューアである dmarkov にコンテンツ・アイテムへのアクセス権を付与していないことにも気付き、承認の前に、メンバー・リストを変更して dmarkov にコンテンツ・アイテムに対する読取り権限を付与します。

最後のステップでは、dmarkov は年次報告書の最終承認を実行します。コンテンツ・アイテムに対する読取り権限により、dmarkov はアイテムを承認または却下できます。ただし、これが編集者ステップである場合、コンテンツ・アイテムをチェックアウトするには dmarkov に RW 権限が必要です。

B

サード・パーティ・ライセンス

概要

この付録では、この製品に含まれるすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスを示します。

- Apache Software License（B-2 ページ）
- W3C® Software Notice and License（B-2 ページ）
- Zlib License（B-4 ページ）
- General BSD License（B-5 ページ）
- General MIT License（B-5 ページ）
- Unicode License（B-6 ページ）
- その他の帰属（B-7 ページ）

APACHE SOFTWARE LICENSE

```
* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
* you may not use this file except in compliance with the License.
* You may obtain a copy of the License at
*      http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
*
* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
 * WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
 * See the License for the specific language governing permissions and
 * limitations under the License.
```

W3C® SOFTWARE NOTICE AND LICENSE

```
* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
* All Rights Reserved.  http://www.w3.org/Consortium/Legal/
*
* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
* being provided by the copyright holders under the following license.By
* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
* you have read, understood, and will comply with the following terms and
* conditions:
*
* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
* documentation, with or without modification, for any purpose and without
* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
* including modifications, that you make:
*
*   1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
*      redistributed or derivative work.
```

```
*
*   2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
*      and conditions.If none exist, a short notice of the following form
*      (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
*      body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
*      [$date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts
*      Institute of Technology, Institut National de Recherche en
*      Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights
*      Reserved. http://www.w3.org/Consortium/Legal/"
*
*   3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the
*      date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location
*      from which the code is derived.)
*
* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS
* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT
* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR
* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE
* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.
*
* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR
* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR
* DOCUMENTATION.
*
* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising
* or publicity pertaining to the software without specific, written prior
* permission.Title to copyright in this software and any associated
* documentation will at all times remain with copyright holders.
*
```

ZLIB LICENSE

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library
  version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler
This software is provided 'as-is', without any express or implied
warranty.In no event will the authors be held liable for any damages
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
including commercial applications, and to alter it and redistribute it
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
   claim that you wrote the original software.If you use this software
   in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
   appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
   misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

GENERAL BSD LICENSE

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

GENERAL MIT LICENSE

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

UNICODE LICENSE

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/ .Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories http://www.unicode.org/Public/, http://www.unicode.org/reports/, and http://www.unicode.org/cldr/data/.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement.BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT.IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved.Distributed under the Terms of Use in http://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS.IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

_____Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions.All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.
FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.
HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.
IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.
Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.
Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.
Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.
Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.
Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.
MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.
Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.
Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.
Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.
Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises.All rights reserved.
Portions Copyright © 1997 Soft Horizons.All rights reserved.
Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.
Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.
Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.
Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.
UNIX is a registered trademark of The Open Group.
Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

索引

A

Add Reviewers, 4-4
admin ロール , 3-2, 3-3
「Allow get copy for user with read privilege」の設定 , 2-4

C

「Choose Workflow」, 4-4
「Choose Workflow Routing」ページ , 4-4
Collaboration Manager のセキュリティ , 3-2
Collaboration Manager の設定 , 5-8
「Company」フィールド , 2-5
config.cfg, 4-8

D

「dDocAccount」フィールド , 2-6
「dSecurityGroup」フィールド , 2-6

E

EnableForcedACLSecurity, 3-7
_ext 接尾辞 , 3-5
「External」ユーザー・タイプ , 2-5

F

Folders コンポーネント , 2-3

I

「Internal」ユーザー・タイプ , 2-5

P

「Phone」フィールド , 2-5
prjWizardTokens の設定 , 4-8
prj アカウント , 3-4
「Project Listing」ページ , 5-7
「Project Roots」ページ , 5-6
Projects セキュリティ・グループ , 3-4

S

sysadmin のデフォルトの権限 , 3-2
sysadmin ユーザー , 3-2
「System Properties」の設定 , 2-4

U

User Admin ツール , 3-5

W

Web Layout Editor, 2-4

X

「xClbraAliasList」フィールド , 2-7
「xClbraUserList」フィールド , 2-7
「xCollectionID」フィールド , 2-6

あ

アカウント , prj, 3-4
アクセス権 , 2-3

え

エイリアス , 2-3, 3-5
エディタ , 2-3
エントリ・イベント・スクリプト , 4-11

か

外部グループ , 3-5
概要 , 製品 , 2-2
管理 , プロジェクト , 5-1, 5-8
管理者の職責 , 2-3, 3-2

き

基準サブスクリプション , 2-6
基準ワークフロー , 4-2, 4-9
機能
　コンテンツ・アイテム , A-19
　フォルダ , A-16
　プロジェクト , A-14

く

グループ , 2-3, 3-5
　外部 , 3-5
　作成 , 3-5
　内部 , 3-5

け

権限 , 2-3, 3-4
　sysadmin のデフォルト , 3-2
　管理 , 3-2
　コンテンツ・アイテム , A-9
　フォルダ , A-6
　プロジェクト , A-3
　読取り , 2-4
　ワークフロー , 4-3

こ

構成
　プロジェクト・ルート , 5-9
構成設定 , 表示 , 5-8
構成ファイル , 4-2
構成ファイルへのトークンの追加 , 4-8
コラボレーション・ワークフロー , 2-4, 4-2
　サンプル , 4-3
　設定 , 4-9
　ヒント , 4-3
コンシューマ , 2-3
コンテンツ・アイテム
　機能 , A-19
　権限 , A-9
　セキュリティ , A-9
　チェックイン , A-18
コントリビュータ , 3-8
コンポーネント , Folders, 2-3

さ

作成
　グループ , 3-5
　プロジェクト , A-14
　ワークフロー情報フィールド , 4-7
　ワークフロー・トークン , 4-5, A-15
作成者 , A-9
サブ管理者 , 3-8
サブスクリプション , 2-6
サンプル
　コラボレーション・ワークフロー , 4-3
　バッチ・ロード・レコード , 2-7

し

システム・セキュリティ・レベル , 3-3
終了条件 , 4-10
情報フィールド , ワークフロー , 4-6
職責 , 管理者 , 2-3, 3-2
所有者 , 3-3, A-6

す

推奨事項 , ワークフロー , 4-3
スクリプト
　エントリ・イベント , 4-11
　トークン , 4-6
スクリプト・テンプレート , 4-11
ステップの説明 , 4-4

せ

製品の概要 , 2-2
セキュリティ , 2-4
　Collaboration Manager, 3-2

コンテンツ・アイテム , A-9
システムレベル , 3-3
フォルダ , A-6
プロジェクト , A-3
ベスト・プラクティス , 3-8
例 , A-13
レベル , 3-3
セキュリティ・グループ , Projects, 3-4
設定
Allow get copy for user with read privilege, 2-4
prjWizardTokens, 4-8
「System Properties」, 2-4
コラボレーション・ワークフロー , 4-9
ユーザー , 3-8
ワークフロー情報フィールド , 4-6
ワークフロー・トークン , 4-4
設定 , Collaboration Manager の表示 , 5-8
接尾辞 , _ext, 3-5
説明
ステップ , 4-4
トークン , 4-4
ワークフロー , 4-4

そ

ソフトウェア要件 , 2-2

た

対象読者 , 1-1

ち

チェックイン , 4-2, A-18

て

ディスカッション , A-21
テンプレート , スクリプト , 4-11

と

トークン , 4-2, 4-5
構成ファイルへの追加 , 4-8
作成 , 4-5
スクリプト , 4-6
設定 , 4-4
説明 , 4-4

な

内部グループ , 3-5

は

バッチ・ロード , 2-6
バッチ・ロード・レコード , 2-7
例 , 2-7

ひ

表記規則 , 1-2
表示
Collaboration Manager の設定 , 5-8
プロジェクト・リスト , 5-10
プロジェクト・ルート , 5-8
ヒント , コラボレーション・ワークフロー , 4-3

ふ

フォルダ
機能 , A-16
権限 , A-6
作成 , A-15
セキュリティ , A-6
フォルダ所有者 , 3-3, A-6
プロジェクト
管理 , 2-5, 5-1, 5-8
機能 , A-14
権限 , A-3
作成 , A-14
セキュリティ , A-3
プロジェクト , すべてを表示 , 5-10
プロジェクトのリスト , 表示 , 5-10
プロジェクト・リード , 3-3, A-3
プロジェクト・ルート
構成 , 5-9
表示 , 5-8

へ

ベスト・プラクティス , セキュリティ , 3-8

め

メタデータ・フィールド
dDocAccount, 2-6
dSecurityGroup, 2-6
xClbraAliasList, 2-7
xClbraUserList, 2-7
xCollectionID, 2-6
ワークフロー , 4-2, 4-6

ゆ

ユーザー , 設定 , 3-8
ユーザー情報フィールド , 2-5
Company, 2-5
Phone, 2-5
ユーザー・タイプ , 2-5
External, 2-5
Internal, 2-5

よ

要件 , ソフトウェア , 2-2
用語 , 2-3
読取り権限 , 2-4

ら

ライブラリの Web サイト , 2-4

る

ルーティング , 2-3

れ

例
コラボレーション・ワークフロー , 4-3
セキュリティ , A-13
バッチ・ロード・レコード , 2-7
レビューア / コントリビュータ , 2-3

ろ

ロール
admin, 3-3

わ

ワークフロー , 2-3, 2-4, A-22
基準 , 4-2, 4-9
権限 , 4-3
コラボレーション , 2-4, 4-2
情報フィールド , 4-2
説明 , 4-4
トークン・スクリプト , 4-6
トークンの設定 , 4-5
ワークフロー情報フィールド , 4-6
作成 , 4-7
設定 , 4-6
ワークフロー・トークン , 4-2, 4-5
構成ファイルへの追加 , 4-8
作成 , 4-5
スクリプト , 4-6
設定 , 4-4
ワークフローの推奨事項 , 4-3